

履修コード	076611
科目名	演習
担当者名	有光 興記

講義の到達目標(ねらい)	臨床心理学(認知行動療法、応用行動分析)、社会心理学領域の研究を実施し、卒業論文の完成を目的とする。
講義の内容/ 授業スケジュール	1. テーマ設定、2. 文献の収集、3. 研究計画の立案、4. 研究の実施、5. 研究結果の分析、6. 研究結果の報告および考察、7. 卒業論文の作成、8. 口頭発表を順に行う。そのために、演習中の指導および個別指導を行っていく。すべての段階で、発表を行い、質疑応答を通じて問題点、改善点を明確にして、より良い研究を目指す。 前期では、テーマ設定(1-2回)、発表会での計画発表を経て、卒業論文関連論文の発表(3-8回)、実験、調査の準備および実施(9-14回)を行う。後期では、結果の分析(15-17回)、卒業論文本文作成の指導(18-25回)、口頭試問の準備(26-28回)を行う。
履修上の留意点	演習時間外に、論文の読み方、テーマ設定などについて面接時間をとることがある。 合宿や発表会での研究発表が義務付けられる。
成績評価の方法	課題への取り組み、発表内容、研究への姿勢によって総合的に評価する。
参考書	適宜、紹介する。

履修コード	075901
科目名	演習
担当者名	茨木 博子

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、各受講生の卒業論文のテーマに即した個別および演習形式による指導を行い、論文を完成させることを目的とする。その他、グループワークとして集団精神療法の一つであるサイコドラマを実施し、日頃の対人関係やより良い人間関係について考え、討議する。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1~14) 卒業論文の構想発表(研究のテーマ設定、研究計画など)および研究計画の実行に関する指導、助言。グループワークによる対人関係の学習(15) 卒業論文の中間発表(16~30) 論文の完成へ向け、結果(データの整理と分析)、考察、論文の書き方の留意点などを指導、助言。グループワークによる対人関係の学習
履修上の留意点	自分の研究に協力して下さる機関や人々に対して、感謝の気持ちを忘れないことが論文作成に大切である。
成績評価の方法	卒業論文作成に取り組む態度(出席も含む)によって評価する。
参考書	随時紹介する。

履修コード	076301
科目名	演習
担当者名	小野 浩一

講義の到達目標(ねらい)	行動分析学はスキナーによって始められたオペラント条件づけの研究に端を発するが、現在では基礎研究のみならず、応用行動分析として人間社会のさまざまな問題に取り組んでいる。本演習では、実験的行動分析学に関する基礎的文献を題材に、諸問題について各自が考え討議することで、人間行動の特徴と機能について深い理解を得ることを目標とする。
講義の内容/ 授業スケジュール	正規の時間は演習形式の授業を行う。卒論についての指導は、各受講生の研究の進展に合わせて個別面接形式で行う。 第1回~15回 Skinner(1990) Can Psychology Be a Science of Mind? をテキストとして人類の進化、行動の変容と障害、モデリング・模倣・教育等社会性の発達、言語の生成・理解、人間の自由と尊厳などについて考える。第16回~30回 行動分析学の日常場面への応用、実践について具体的事例を参考にしながら学ぶ。
成績評価の方法	授業への積極的な参加と授業内容の理解度によって評価する。
参考書	以下の学術雑誌を参照のこと 行動分析学研究 Journal of the Experimental Analysis of Behavior Journal of Applied Behavior Analysis

履修コード	076621
科目名	演習
担当者名	鈴木 常元

講義の到達目標(ねらい)	受講生が各自の関心のあるテーマについて、卒業論文を作成する。そのために、受講生は、研究の進行状況について定期的に発表を行い、指導を受けることになる。
講義の内容/ 授業スケジュール	研究テーマを決定し、それに関する文献を収集・整理し、研究計画を立てる。それに基づいて、実験あるいは調査をおこない、収集したデータを分析する。これらの成果をまとめ、卒業論文を作成する。また、プレゼンテーションの方法についても身につける。
履修上の留意点	授業時間以外にも、研究指導がおこなわれることがある。
成績評価の方法	授業への出席と授業へ取り組む姿勢によって評価する。

履修コード	076401
科目名	演習
担当者名	谷口 泰富

講義の到達目標(ねらい)	本講は、主として卒業論文に関する実践的研究、データの解析方法やその解釈、及び研究の位置づけなどについて学びます。そして最終的には科学的論文の初歩としての卒業論文を実際に完成させることを目的としています。
講義の内容／ 授業スケジュール	『卒業論文作成カルテ』に従い、学生一人一人の研究テーマに沿った形で計画的な指導を行います。そのためには当該時間内だけでの指導のみでは不十分ですので、学生と相談の上、別の時間割を編成しそこで個別指導を行います。 (1) オリエンテーション、(2～4) 資料の分析と解釈及び個人面談、(5～6) 結果の表記法及び個人面談、(7～9) 第1回卒業論文点検、(10～11) 文献研究のまとめ方及び個人面談、(12～14) 第2回卒業論文点検、(15～16) 研究結果と考察及び個人面談、(17～19) 第3回卒業論文点検、(20) 引用文献の書き方、(21～23) 第4回卒業論文点検、(24～30) 卒業論文最終点検(個人指導)
履修上の留意点	研究テーマにより個別指導が中心となります。従って、週2回以上の指導を受けることが義務となります。学生の人数によっては、早朝や深夜の指導もあり得ますので留意してください。遅刻や欠席については厳しく指導します。
成績評価の方法	課題報告やレポート及び卒業論文の質的側面から評価します。
教科書／テキスト	『卒業論文作成カルテ』を配布します。
参考書	随時紹介します。

履修コード	076001
科目名	演習
担当者名	茅原 正

講義の到達目標(ねらい)	卒業論文の作成指導を中心におこなう。各人のテーマに関わる問題点の指摘や研究のすすめ方、論文の書き方など、具体的な指導をおこなう。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期は、テーマの決定・参考文献・資料の収集・分析、実験・調査の計画、論文の構成など、文献研究を中心に、問題点を整理して構想を練る。 後期は、実験・調査のデータ整理、結果の報告、論文構成の決定、執筆というスケジュールで、各自が研究の成果を検討・考察して中間報告をおこない、発表・討論を経て論文の完成を目指す。(スケジュール) 1～2 ガイダンス 3～5 卒論構想発表 6～8 論議決定 9～11 データの収集分析 12～13 中間報告 14～18 論文指導・中間報告 19～23 論文指導 24～28 まとめ。
履修上の留意点	前期は、卒業論文の構想について文献的研究中心の中間発表。 後期は、随時、関連する論文の内容の紹介や、実験・調査の結果報告や卒論の具体的内容について発表・議論してもらう。
成績評価の方法	出席および発表・討論に対する積極性を重視し、評価する。

履修コード	076201
科目名	演習
担当者名	永田 陽子

講義の到達目標(ねらい)	本演習は、卒業論文を完成させることを最終目標としています。従って、各受講者が卒業論文作成のための文献研究、実験・調査の計画とその実施、結果と考察のまとめ方、論文の書き方、さらに口頭発表の仕方を習得することが本演習の目的です。
講義の内容／ 授業スケジュール	各受講者の論文テーマに即した実質的・具体的な指導を個別かつ演習形式で遂行していきます。受講者は各自のテーマについて、個別に指導をうけると同時に、演習時にその研究経過を発表し、他の受講者からの意見や討論などを通じて、論文の完成を高めていくことになります。
履修上の留意点	各受講者の卒業論文の研究に基づく面接を随時行います。
成績評価の方法	演習時における年間を通じた研究姿勢によって評価します。
参考書	必要な参考図書および文献を演習時に随時提示します。

履修コード	076501
科目名	演習
担当者名	間島 英俊

講義の到達目標(ねらい)	本演習は卒業論文の作成を最終目的としています。したがって、論題(卒論テーマの決定)、問題(文献研究)、目的・方法(研究計画とその実施)、結果・考察(研究結果の分析、議論)のスケジュールにそって、指導がなされます。
講義の内容／ 授業スケジュール	基本的には受講者各自の研究テーマに基づいて、上述のスケジュールにそった具体的指導がなされます。演習という性格から、受講者は、1. 卒論テーマの設定 2. 文献研究法 3. 研究計画および実施 4. 研究結果の考察、議論についてゼミでの発表、意見、討論をとおしてお互いの研究向上を目指すこととなります。なお、当ゼミの性格上、必ずゼミ生同士の活発な意見交換を前提にゼミ運営がなされます。個人的指導は10月中ぐらいから開始しますが、あくまでも卒論作成の補助的なものです。
履修上の留意点	演習時間内では、上述の1～4の発表、意見、討論ならびに個別指導がなされますが、個人の研究の進捗状況によっては演習時間外も指導します。
成績評価の方法	出席はもとより演習における真摯な研究態度に対して評価がなされます。

履修コード	076601
科目名	演習
担当者名	八巻 秀

講義の到達目標(ねらい) 卒論の作成に向けて、そのテーマに関連している臨床心理学関連の文献について学ぶ機会を提供します。それらの臨床心理学に関する文献を読みまとめるという作業を通して、卒論作成のためのスキルも獲得することを目標とします。

講義の内容／授業スケジュール (1)オリエンテーション、(2～4)卒論研究の計画の確認、(5～7)中間報告、(8～13)個別研究指導面接①ならびに全体会、(14～18)予備実験あるいは調査に関する報告と討議、(19～23)個別研究指導面接②ならびに全体会、(24～28)本実験・調査の計画と実施に関する報告と討議、(29～30)卒業論文最終報告会

成績評価の方法 出席・授業への取り組み姿勢などを総合的に評価します。

教科書／テキスト 必要に応じて授業中に指示します。

参考書 必要に応じて授業中に指示します。

履修コード	074701
科目名	カウンセリング
担当者名	茨木 博子

講義の到達目標(ねらい) カウンセリングとは、ともしれば悩みや苦しみに目をそむけようとする人が、その悩みや苦しみに立ち向かい、自ら立ち直っていけるよう援助する心理面接である。しかし一般的には、カウンセリングとは何か、その本来の定義が理解されているとは言えない。
そこで本講義では、カウンセリング心理学、マイクロカウンセリングに基づき、カウンセリングおよびカウンセラーとは何かを学び、カウンセリングの基本的技法を修得することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール (1～4)カウンセリングについて、討議(5～8)カウンセリング心理学の発達史、討議(9～11)カウンセリング心理学の独自性、討議(12～15)多様化するカウンセラーの機能と働き方、討議(16～22)カウンセラーに必要な基本的態度と能力、マイクロカウンセリング、討議(23～30)ビデオ学習とロールプレイングによる体験学習、討議

履修上の留意点 原則として、内容ごとに小グループに分かれ、討議するので、欠席を慎むこと。

成績評価の方法 出席、授業態度、定期試験、レポートで総合的に評価する。

教科書／テキスト 必要に応じてプリントを配布する。

参考書 渡辺三枝子『カウンセリング心理学』(ナカニシヤ出版)2,100円
河合隼雄『カウンセリングの実際問題』(誠信書房)2,000円

履修コード	072001
科目名	学習心理学
担当者名	久保 尚也

講義の到達目標(ねらい) 心理学における学習とは、一般的な“勉強する”といった意味ではなく、「経験によって生じる比較的永続的な行動の変化」を意味する。わたしたち人間は日常において、何かを経験して振る舞いや習慣を変えようといった行動の変容を繰り返している。

学習心理学は、このような“生体が経験を通して行動を変容させていく過程”を研究する心理学の一領域であり、基礎心理学において重要な分野である。
また、行動について理解することは、ヒューマンサービスの仕事を将来的に目指す人にとっても重要であり、学習心理学の知識は今日では欠かせないものといえる。

本講義では、学習心理学で明らかにされた諸現象や学習の諸理論などの専門的な知識を身につけ、行動についての知識を深めることを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 学習心理学の諸現象とそれらを説明するためにたてられた諸理論について、できるだけ身近な事例をまじえながら紹介する。また、動物実験のデモや、ビデオなどの映像資料等なども使用する予定である。

オリエンテーション(1回目)

【I. 行動についての基礎知識(2～4回)】

- ①学習心理学の歴史的背景 ②行動とは?
- ③2種類の行動—レスポンド行動とオペラント行動—

【II. レスポンド行動(5～10回)】

- ①レスポンド行動の学習の仕組み ②レスポンド条件づけの諸現象
- ③レスポンド条件づけの新しい考え方

【III. オペラント行動(11～22回)】

- ①オペラント行動の学習の仕組み ②行動の獲得と維持・消去
- ③複雑な強化スケジュール ④負の強化—逃避行動と回避行動 ⑤弱化的
- ⑥先行刺激によるオペラント行動の制御

【IV. 言語行動(23～26回)】

- ①言語行動の種類 ②言語行動の獲得と働き ③言語刺激による行動の制御

【V. オペラント行動研究の展開(27～30回)】

- ①選択行動 ②迷信行動 ③社会的行動 ④研究と実践の統合

成績評価の方法 出席日数(2/3以上)、定期試験、授業態度等により総合的に評価する

教科書／テキスト 小野浩一著 『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』(培風館)

履修コード	058451
科目名	家族とジェンダーの社会学A
担当者名	松信 ひろみ

講義の到達目標(ねらい) 本講義のテーマは、現代の結婚と家族にかかわる諸現象や問題を、社会的な観点から考察することである。統計的なデータから、さまざまな現象や問題についての現状を読み取り、その現状を社会的な観点から把握できる能力を養うことが目標となる。

講義の内容／授業スケジュール 授業の前半では、家族社会学の基本的な考え方を解説し、近代家族から現代家族への変遷の過程について説明する。授業の後半では、現代家族をめぐる具体的な現象や問題を取り上げ、各々について統計的なデータなども用いて現状の解説と社会的な観点からの検討を行う。具体的には、未婚化・晩婚化の進展、離婚の増加、少子・高齢化、共働き家族の仕事と家庭生活の調和の問題などを取り上げて検討してゆく。

第1回 家族変動と家族のゆくえ
 第2回 家族機能の変化
 第3回 ライフコースと家族
 第4回 ネットワークと家族
 第5回 新しい家族のかたち①事実婚や同性婚
 第6回 新しい家族のかたち②単親家族とステップ・ファミリー
 第7回 恋愛と結婚①現代の結婚
 第8回 恋愛と結婚②シングルライフ
 第9回 性別役割分業と家族
 第10回 少子化と子育て支援①現代の少子化
 第11回 少子化と子育て支援②子育て支援
 第12回 高齢化社会と家族①だれが介護するのか
 第13回 高齢化社会と家族②看取りとグリーフワーク
 第14回 ストレスとしての家族
 第15回 まとめ

成績評価の方法 平常点（出席・コメントペーパー）30%、レポート70%

教科書／テキスト 増子勝義編著『21世紀の家族さがし』学文社、2010

参考書 適宜紹介する

履修コード	058461
科目名	家族とジェンダーの社会学B
担当者名	松信 ひろみ

講義の到達目標(ねらい) 本講義のテーマは、ジェンダーの観点から現代社会の諸現象や問題を考察することである。さまざまな社会現象や問題に関して、ジェンダーの視点から検討することにより、新たに見えてくる問題を把握し、その問題について、社会的な観点から考察を行うことを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール 授業の前半では、ジェンダーについて基本的な考え方を解説する。授業の後半では、ジェンダーにかかわる具体的なトピックについて、統計的なデータも用いて現状の解説と社会的な観点からの考察を行う。また、当該者を招いて話をさせていただくことも考えている。授業で扱う具体的なトピックは、多様な性の存在、性別役割分業とケアの担い手、雇用と就労、性暴力、性の商品化、リプロダクティブ・ヘルス&ライツなどである。

第1回 ジェンダーとは
 第2回 多様な性の存在①ジェンダーとセクシュアリティ
 第3回 多様な性の存在②セクシュアル・マイノリティの現状
 第4回 ジェンダーと男性問題（メンズリブ）
 第5回 ケアの担い手とジェンダー①育児の担い手
 第6回 ケアの担い手とジェンダー②介護の担い手
 第7回 雇用・就労とジェンダー①性別職域分離
 第8回 雇用・就労とジェンダー②労働環境におけるジェンダー格差
 第9回 リプロダクティブ・ヘルス&ライツ①生殖にかかわる南北問題
 第10回 リプロダクティブ・ヘルス&ライツ②生殖医療
 第11回 性暴力とジェンダー①セクシュアル・ハラスメント
 第12回 性暴力とジェンダー②ドメスティック・バイオレンス
 第13回 性の商品化とジェンダー①性の商品化とは
 第14回 性の商品化とジェンダー②ポルノや売春の問題性とは
 第15回 まとめ

履修上の留意点 家族とジェンダーの社会学Aと連動している部分もあるため、できれば、家族とジェンダーの社会学Aも履修しておいてほしい。

成績評価の方法 平常点（出席・コメントペーパー）30%、レポート70%

教科書／テキスト 特定の教科書は使用しないので、参考書を随時参照してほしい。

参考書 増子勝義編著『21世紀の家族さがし』学文社、2010
 伊藤公男『ジェンダーの社会学（新訂）』（財）放送大学教育振興会、2010

履修コード	073401
科目名	環境心理学
担当者名	林 久美

講義の到達目標(ねらい) 私たちをとりまく「環境」とは？

実にさまざまな要素からなる「環境」。人間が存在し、その周囲にある空間・室内、建築、都市…一すなわち「環境」はいろいろな尺度で捉えることができる。そのなかで私たちの生活は存在し、人間と環境は常に相互に影響を与え合っている。

人間がより豊かで多様な関わりを持てる環境を作るために、人間が環境をどのように知覚・認知しているか、あるいは環境における人間行動・生態など、人間が本来的に持つ性質を実証的に明らかにする観察・実験例（環境行動研究：Environment-Behavior Studies）をもとに、それを基盤とした人間の観点に基づく環境デザインの理論的背景を得ることを目的とする。

**講義の内容／
授業スケジュール**

- 1) 環境心理学の概観・問題意識
・環境行動デザインの意義・建築計画学と環境心理学
- 2) 人間の心理・行動とそのデザインへの応用
・人間のスケール、人間の周りの空間・環境と行動・環境のアフォーダンス・プロクセミクス・パーソナルスペース・テリトリー・ディフェンシブルスペース・空間の知覚/認知・ウェイファインディング
- 3) 建築計画学における環境心理研究・実践
・住まいと環境心理学・都市と環境心理学・こどもの発達と環境心理学・老いと環境心理学

履修上の留意点

日常生活に関連する事柄が多いので、日頃から自身の行動、周辺環境との関わりについて興味を持っていること。

成績評価の方法

レポートによる。

参考書

- ・日本建築学会編：人間環境学、朝倉書店、1998
- ・高橋鷹志、長澤泰、西出和彦編：シリーズ<人間と建築> 1 環境と空間、朝倉書店、1997
- ・ジョン・ラング著、高橋鷹志監訳「建築理論の創造 建築デザインにおける行動科学の役割」鹿島出版会（1992）
- ・高橋鷹志＋チームEBS編著：環境行動のデータファイル-空間デザインのための道具箱-、彰国社、2003

履修コード	058501
科目名	行政法
担当者名	鶏徳 啓登

講義の到達目標(ねらい)

現代国家は、一般に福祉国家と言われるようになったが、我国も憲法制定後60年経過して、国外的・国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。国内的には戦後の経済政策の下になされた約1万件に上る規制の緩和がなされる一方で、国民の高齢化問題に対処すべく消費税率の引き上げ、宗教法人法の改正による宗教団体の規制問題など枚挙に暇がない。

本講義は、種々の行政作用を中心に行政法の輪郭を理解することをねらいとする。

**講義の内容／
授業スケジュール**

- 1回～3回：行政法の意義について（法令の種別と法の解釈を含む）。
- 4回～6回：行政作用と行政行為について。
- 7回～15回：行政行為（特許や許可等）の意義、内容、効力について。
- 16回～20回：行政上の強制手段と行政上の処罰について。
- 21回～25回：国家による賠償と補償について。
- 26回～30回：行政上の不服申し立てと行政事件訴訟について。

成績評価の方法

成績評価は出席状況と試験またはレポートによる。

教科書／テキスト

原田尚彦著 『行政法要論』（学陽書房） 3,000円：ISBN4-313-31222-6
『小六法』 出版社・定価各種

参考書

塩野宏著『行政法I・II』（有斐閣）4,000円 その他、教場にて説明。

履修コード	117501
科目名	経済原論 ◎
担当者名	福田 慎

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、基本的なミクロ経済学とマクロ経済学について扱う。特に、公務員試験の他国家試験に対応できる知識を得ることを目的としている。こうした試験では、それ相応の問題が設定されているため、それに対応できる知識が得られる。また、実際の経済への応用を念頭に置きながら講義を進めていく。

講義の内容／授業スケジュール

(前期)

1. ガイダンスと成績評価
2. 消費者理論：最適消費点と無差別曲線
3. 消費者理論：代替効果と所得効果
4. 消費者理論：効用関数の計算と需要曲線
5. 消費者理論：需要の価格弾力性
6. 生産者理論：利潤最大化と費用関数
7. 生産者理論：損益分岐点と操業停止点
8. 生産者理論：長期均衡、課税と費用曲線
9. 生産者理論：特定の生産関数の扱い
10. 不完全競争の生産者理論：独占と寡占
11. 不完全競争の生産者理論：独占的競争
12. 余剰分析 (1)
13. 余剰分析 (2)
14. 余剰分析 (3)
15. 前期の復習

(後期)

1. 国民所得の決定 (1)
2. 国民所得の決定 (2)
3. IS-LM分析
4. 為替レート考慮したIS-LM分析
5. 消費関数と投資関数
6. 貨幣理論
7. 乗数理論 (1)
8. 乗数理論 (2)
9. 総需要・総供給分析 (1)
10. 総需要・総供給分析 (2)
11. 総需要・総供給分析 (3)
12. 総需要・総供給分析 (4)
13. 経済成長の理論 (1)
14. 経済成長の理論 (2)
15. 後期の復習

履修上の留意点 ミクロ経済学ではある程度の数学の知識を要しますが、その都度説明していくので、数学初心者でも履修は可能です。

成績評価の方法 試験60%、レポート40%で評価する。

教科書／テキスト 岩田規久男、飯田泰之著、『ゼミナール経済政策入門』(2006)、日本経済新聞社、ISBN: 4-532-13310-6

参考書 ミクロ経済学：武隈慎一、(1999)、『ミクロ経済学』、新世社
マクロ経済学：N. グレゴリー・マンキュー、足立ほか訳、(2008)、『マンキューマクロ経済学 I 入門編』、東洋経済新報社

その他 事前に配布する資料と板書による講義形式です。

履修コード	073901
科目名	健康心理学
担当者名	稲松 信雄

講義の到達目標(ねらい) 従来の生理学的ストレス理論を出発として生理心理学の基礎、神経系の概略を学び、W. B. Cannon & H. Selyeの学説を理解し、内分泌、免疫系に多少言及する。Psychological Stressを中心にStressor Agentsの認知、評価の問題を扱い、それと精神神経免疫学 (Psychoneuroimmunology) やホリスティック医学 (Holistic Medicine) を関係づけて、健康は心身相関を表現しており、特にプラス思考こそ健康維持にとって重要な役割を果たしていることを学ぶ。プラス思考は積極的感情や情動と密接な関係にあることも学習する。後期は動機の階層と十牛図や、気と健康の関係、さらにV. E. FranklやNorman Kousinsの著作からPositive Thinkingはどうのような哲学を持つことによって形成されるかを学ぶ。終わりに長寿高齢者の良き具体的適応例を学び、健康心理学は、机上の知識獲得ではなく、良き先達の人生哲学を習得することにある。そのことを学習する。

講義の内容／授業スケジュール 講義内容は以下のような項目となる

- ①序：健康心理学について精神活動と心の重要性
- ②精神活動と身体反応との関係
- ③心理学的ストレスと生理学的ストレス
- ④ストレスと情緒反応 ⑤情緒の生理学的機構
- ⑥情緒の分類と感情の統御 ⑦情緒と精神神経免疫学
- ⑧情緒と欲求との関係
- ⑨感情&ストレスと健康の総括 ⑩積極思考の涵養
- ⑪健康問題を扱っている著名な精神科医やジャーナリストの思考を学ぶ
- ⑫気と健康、霊性 (spirituality) と健康との関係を考察する
- ⑬長寿高齢者の良き適応を学習

履修上の留意点 外国語を英語で受験した人が望ましい、英文の補助プリントを使用する時がある。

成績評価の方法 成績は前期は試験を実施、後期はレポート提出その両方の成績に、出席を加味する。(但：履修者が40名を超えた場合には授業時間の前期・後期の最終日に試験を実施する。)

教科書／テキスト 教科書として「健康心理学：資料集」(東邦大学医学部心理学研究室編)を使用する(授業開始時に配布：実費徴収)。

参考書 参考書は特に必要としない。随時補助プリントを準備します。

その他 講義を中心とするが、ビデオ、カセット、Power Pointを必要に応じて使用する。

履修コード	058381
科目名	雇用と労働の社会学
担当者名	山田 信行

講義の到達目標(ねらい) 社会学の観点から雇用と労働に関する基本的な理解を深めるとともに、非典型雇用、ワーキング・プア、および外国人労働者などの現代的な問題への認識も深める。

講義の内容／授業スケジュール この講義では、雇用という関係について基礎的な事項を確認したうえで、主として日本を事例として、雇用をめぐる基本的な制度とその現代的な変容について、パート労働や有期雇用の拡大、および外国人労働者の利用に象徴される雇用の多様化とそれに伴う労使関係の変化に言及しながら概説する。講義の内容は、以下の通り（各単元につき、1～2回程度講義を行う予定）。

1. 雇用という関係－雇用の発生と労使関係の本質
2. 労使関係の現代的展開－労使関係モデルの変遷とグローバル化
3. 現代日本の産業・労働
 - (1) 年功賃金と終身雇用
 - (2) フレキシビリティと非典型雇用
 - (3) フリーター問題
 - (4) 自主管理活動
 - (5) 企業別組合と春闘
 - (6) ユニオンと新しい労働運動
 - (7) ME革命と技術革新
 - (8) 日本型コーポラティズム
4. 外国人労働者と看護・ケア労働
 - (1) 日本における外国人労働者
 - (2) 再生産労働のグローバル化
 - (3) 外国人看護労働の現状と課題

準備学習 日常的にメディアによる報道などを通じて、雇用の問題に関心を持つておくことが望ましい。

履修上の留意点 講義の内容を的確に理解するためには、継続的に出席することが重要である。

成績評価の方法 授業内で行う小テスト（5回）によって、成績を評価する予定。小テストの成績は、継続的な出席と講義内容の復習と大きな相関をもつことが想定される。

教科書／テキスト とくになし。

参考書 山田信行1996『労使関係の歴史社会学』ミネルヴァ書房

その他 前期に開講される「産業と変動の社会学」もあわせて履修することが望ましい。

履修コード	071101
科目名	コンピュータ実習
担当者名	佐藤 理晴

講義の到達目標(ねらい) 現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、心理学を専攻する大学生にとってのコンピュータの活用技術は今後の実験や実習等を行う上で最低限習得しなければならない重要なスキルである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験していると思うが、本科目では心理学を学ぶ大学生に求められるコンピュータの利用法を徹底的に習得することを目標とする。従って、コンピュータ操作に関して高校卒業レベルの者が、独力でコンピュータを活用して心理学実験レポート等を作成する能力を養う内容となる。さらに、実習を通じて自分の得た結果や事実、考えをまとめて発表するための方法を習得する。

講義の内容／授業スケジュール 授業は全て実習形式で行う。前期は主に各ソフトウェアの基本操作、後期はそれらを組み合わせた利用法の実践を学習する。概要はおおむね以下の通りである。

- ・パソコンの基本操作（ファイル管理、キーボードによる文字入力など）
- ・文書作成の基本、レポート形式の文書作成（MS-Word）
- ・表計算ソフトによるデータ分析（MS-Excel）
- ・パソコンを用いた口頭発表（MS-PowerPoint）
- ・Internet利用の実際と注意（電子メール、文献検索、マナーやモラルについて）
- ・基礎的な統計処理（PASW Statistics）
- ・情報処理の基礎知識

詳細スケジュール

- 01回目：オリエンテーション 教材、資料の配布
- 02回目：コンピュータの基本操作 タッチタイプ練習
- 03～04回目：日本語入力、ワープロによる文書作成
- 05回目：インターネットの仕組みと注意・電子メールの利用法と注意
- 06回目：表計算ソフトの基本操作
- 07～08回目：プレゼンテーションの技術
- 09回目：プレゼンテーション演習 課題説明
- 10回目：コンピュータの基本原則（ファイル構造とデータの内部表現など）
- 11～14回目：プレゼンテーション演習 発表
- 15回目：図書館蔵書、学術論文の検索
- 16回目：統計パッケージの基本操作
- 17～21回目：実験データの分析1（ χ^2 検定、t検定）
- 22～25回目：総合課題解説
- 26～27回目：実験データの分析2（1要因の分散分析）
- 28回目：総合演習課題提出

履修上の留意点 年間28回の授業時間では学習時間が不足するため、本科目では授業内容に対応する課題が出される。課題を行うには、総合情報センター自習室を利用するとよい（個人で所有しているパソコンでも、ほとんどの課題は可能である）。詳細は開講時に説明する。総合情報センターの利用資格が必須となるので、入学時のオリエンテーションで必ず利用資格の交付を受けること。

成績評価の方法 出欠、課題提出の状況、プレゼンテーション演習および総合課題の成績を評価の対象とする。授業開始後30分までの遅刻を欠席0.5回分とし、以降の入室は欠席扱いとなる。なおこの科目は必修科目であるため単位の1年次に単位を取得しておかなければ上級学年で履修できる科目が制限される場合がある。1年次に取得できるように努力されたい。

教科書／テキスト 資料、データなどは、基本的にコンピュータのファイル形式で配布する。従って初回に配布する記憶メディアを毎回持参すること。

参考書 授業中に最新のものを指示する。

その他 パソコンを独自に購入するのであれば、Windows7およびMicrosoftOfficeが導入されているものを購入するとよい。詳細や注意事項については開講時に解説する。なお、実習に必要な記憶メディアは心理学科が用意し、開講時に配布するので各自が事前に用意するものは無い。

履修コード	071201
科目名	コンピュータ実習
担当者名	佐藤 理晴

講義の到達目標(ねらい) 現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、心理学を専攻する大学生にとってのコンピュータの活用技術は今後の実験や実習等を行う上で最低限習得しなければならない重要なスキルである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験していると思うが、本科目では心理学を学ぶ大学生に求められるコンピュータの利用法を徹底的に習得することを目標とする。従って、コンピュータ操作に関して高校卒業レベルの者が、独力でコンピュータを活用して心理学実験レポート等を作成する能力を養う内容となる。さらに、実習を通じて自分の得た結果や事実、考えをまとめて発表するための方法を習得する。

講義の内容／授業スケジュール 授業は全て実習形式で行う。前期は主に各ソフトウェアの基本操作、後期はそれらを組み合わせた利用法の実践を学習する。概要はおおむね以下の通りである。

- ・パソコンの基本操作（ファイル管理、キーボードによる文字入力など）
- ・文書作成の基本、レポート形式の文書作成（MS-Word）
- ・表計算ソフトによるデータ分析（MS-Excel）
- ・パソコンを用いた口頭発表（MS-PowerPoint）
- ・Internet利用の実際と注意（電子メール、文献検索、マナーやモラルについて）
- ・基礎的な統計処理（PASW Statistics）
- ・情報処理の基礎知識

詳細スケジュール
01回目：オリエンテーション 教材、資料の配布
02回目：コンピュータの基本操作 タッチタイプ練習
03～04回目：日本語入力、ワープロによる文書作成
05回目：インターネットの仕組みと注意・電子メールの利用法と注意
06回目：表計算ソフトの基本操作
07～08回目：プレゼンテーションの技術
09回目：プレゼンテーション演習 課題説明
10回目：コンピュータの基本原則（ファイル構造とデータの内部表現など）
11～14回目：プレゼンテーション演習 発表
15回目：図書館蔵書、学術論文の検索
16回目：統計パッケージの基本操作
17～21回目：実験データの分析1（ χ^2 検定、t検定）
22～25回目：総合課題解説
26～27回目：実験データの分析2（1要因の分散分析）
28回目：総合演習課題提出

履修上の留意点 年間28回の授業時間では学習時間が不足するため、本科目では授業内容に対応する課題が出される。課題を行うには、総合情報センター自習室を利用するとよい（個人で所有しているパソコンでも、ほとんどの課題は可能である）。詳細は開講時に説明する。総合情報センターの利用資格が必須となるので、入学時のオリエンテーションで必ず利用資格の交付を受けること。

成績評価の方法 出欠、課題提出の状況、プレゼンテーション演習および総合課題の成績を評価の対象とする。授業開始後30分までの遅刻を欠席0.5回分とし、以降の入室は欠席扱いとなる。なおこの科目は必修科目であるため単位の1年次に単位を取得しておかなければ上級学年で履修できる科目が制限される場合がある。1年次に取得できるように努力されたい。

教科書／テキスト 資料、データなどは、基本的にコンピュータのファイル形式で配布する。従って初回に配布する記憶メディアを毎回持参すること。

参考書 授業中に最新のものを指示する。

その他 パソコンを独自に購入するのであれば、Windows7およびMicrosoftOfficeが導入されているものを購入するとよい。詳細や注意事項については開講時に解説する。なお、実習に必要な記憶メディアは心理学科が用意し、開講時に配布するので各自が事前に用意するものは無い。

履修コード	071301
科目名	コンピュータ実習
担当者名	佐藤 理晴

講義の到達目標(ねらい) 現代社会においてコンピュータは必須の情報処理装置である。とりわけ、心理学を専攻する大学生にとってのコンピュータの活用技術は今後の実験や実習等を行う上で最低限習得しなければならない重要なスキルである。すでに高校時代にコンピュータを利用した授業を経験していると思うが、本科目では心理学を学ぶ大学生に求められるコンピュータの利用法を徹底的に習得することを目標とする。従って、コンピュータ操作に関して高校卒業レベルの者が、独力でコンピュータを活用して心理学実験レポート等を作成する能力を養う内容となる。さらに、実習を通じて自分の得た結果や事実、考えをまとめて発表するための方法を習得する。

講義の内容／授業スケジュール 授業は全て実習形式で行う。前期は主に各ソフトウェアの基本操作、後期はそれらを組み合わせた利用法の実践を学習する。概要はおおむね以下の通りである。

- ・パソコンの基本操作（ファイル管理、キーボードによる文字入力など）
- ・文書作成の基本、レポート形式の文書作成（MS-Word）
- ・表計算ソフトによるデータ分析（MS-Excel）
- ・パソコンを用いた口頭発表（MS-PowerPoint）
- ・Internet利用の実際と注意（電子メール、文献検索、マナーやモラルについて）
- ・基礎的な統計処理（PASW Statistics）
- ・情報処理の基礎知識

詳細スケジュール
01回目：オリエンテーション 教材、資料の配布
02回目：コンピュータの基本操作 タッチタイプ練習
03～04回目：日本語入力、ワープロによる文書作成
05回目：インターネットの仕組みと注意・電子メールの利用法と注意
06回目：表計算ソフトの基本操作
07～08回目：プレゼンテーションの技術
09回目：プレゼンテーション演習 課題説明
10回目：コンピュータの基本原則（ファイル構造とデータの内部表現など）
11～14回目：プレゼンテーション演習 発表
15回目：図書館蔵書、学術論文の検索
16回目：統計パッケージの基本操作
17～21回目：実験データの分析1（ χ^2 検定、t検定）
22～25回目：総合課題解説
26～27回目：実験データの分析2（1要因の分散分析）
28回目：総合演習課題提出

履修上の留意点 年間28回の授業時間では学習時間が不足するため、本科目では授業内容に対応する課題が出される。課題を行うには、総合情報センター自習室を利用するとよい（個人で所有しているパソコンでも、ほとんどの課題は可能である）。詳細は開講時に説明する。総合情報センターの利用資格が必須となるので、入学時のオリエンテーションで必ず利用資格の交付を受けること。

成績評価の方法 出欠、課題提出の状況、プレゼンテーション演習および総合課題の成績を評価の対象とする。授業開始後30分までの遅刻を欠席0.5回分とし、以降の入室は欠席扱いとなる。なおこの科目は必修科目であるため単位の1年次に単位を取得しておかなければ上級学年で履修できる科目が制限される場合がある。1年次に取得できるように努力されたい。

教科書／テキスト 資料、データなどは、基本的にコンピュータのファイル形式で配布する。従って初回に配布する記憶メディアを毎回持参すること。

参考書 授業中に最新のものを指示する。

その他 パソコンを独自に購入するのであれば、Windows7およびMicrosoftOfficeが導入されているものを購入するとよい。詳細や注意事項については開講時に解説する。なお、実習に必要な記憶メディアは心理学科が用意し、開講時に配布するので各自が事前に用意するものは無い。

履修コード	073601
科目名	産業心理学
担当者名	大谷 華

講義の到達目標(ねらい) 産業心理学では、組織で働く人々の行動や意識を心理学的に考えます。会社は何を考えて人を雇うのか？ どのような組織経営が働き手の意欲を高め、生産性につながるか？ 安全に働くためになすべき工夫とは？ みなさんが社会人となったときに、幸せなワークライフを送り、健全な組織経営を促すための知識と視点を学びましょう。

講義の内容／授業スケジュール 1. ガイダンス、2. 産業・組織心理学の歴史と研究、3. 組織行動（ワークモチベーション、組織のコミュニケーション、リーダーシップ）、4. 人的資源管理（採用・面接、人事評価、キャリア発達）、5. 職場の安全衛生（能率と安全、ヒューマンエラー、人間工学とデザイン）、6. まとめ、テスト、フィードバック。受講生の関心・要望に応じて、授業内容を変更する場合があります。

成績評価の方法 前後期に授業内試験、およびレポート課題を行います。授業中に随時、ミニレポートとリアクションペーパーを課します。試験・レポート成績とリアクションペーパーの提出・内容を総合的に評価します。

教科書／テキスト 『よくわかる産業・組織心理学』山口裕幸・金井篤子（編）、ミネルヴァ書房

履修コード	058371
科目名	産業と変動の社会学
担当者名	山田 信行

講義の到達目標(ねらい)	社会学の観点から産業と社会変動に関する基本的な理解を深めるとともに、労使関係、企業戦略、生産システム、およびグローバル化などの現代的な問題への認識を深める。
講義の内容/ 授業スケジュール	この講義では、労使関係の変化とそれに対する雇主の対応と企業戦略の変化に照準して、生産システムの変遷をたどり、その過程に多国籍企業の展開と日本的なシステムの意義を位置づける。さらに、現代社会の基本的な変動趨勢としてのグローバル化の原因とその影響についても考察する。授業の内容は、以下のとおり。それぞれについて、2回程度講義を行う。 1. 近代化・産業化・資本主義-労使関係の成立 2. 労使関係と生産システム (1) テーラー主義とその限界 (2) フォード主義とその意味 3. ポスト・フォード主義 (1) 労使関係の変容とフォード主義の限界 (2) 雇主の戦略と新国際分業 (3) 多国籍企業の戦略と周辺社会の工業化 (4) 日本的生産システム 4. グローバル化と日本的生産システム (1) グローバル化の原因と日本企業 (2) 国際移転と普遍性 5. グローバル化とサービス経済化 (1) ポスト新国際分業と産業構成の変化 (2) 世界都市と移民労働者の流入 6. インフォーマル化の進展 (1) インフォーマル・セクターの拡大 (2) インフォーマル化の概念と意味
準備学習	日ごろから、新聞その他のメディアを通じて、授業で扱う問題についての知識を吸収しておくことが望ましい。
履修上の留意点	継続的に出席することが、講義内容を理解するうえで重要である。
成績評価の方法	授業内で実施する小テスト(5回実施)によって、成績を評価する予定。出席はとらないが、小テストの成績は出席率と強い相関があることはいうまでもないので、その点留意すること。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	山田信行 1998『階級・国家・世界システム-産業と変動のマクロ社会学』ミネルヴァ書房
その他	後期に隔年開講している雇用と労働の社会学もあわせて履修することが望ましい。

履修コード	073501
科目名	児童心理学
担当者名	澤田 匡人

講義の到達目標(ねらい)	- 小学校入学前後から思春期までを中心とした子どもについて、その心理的特徴に関する基礎的な知識の習得を目的とします。
講義の内容/ 授業スケジュール	- 原則として「1回1テーマ」で簡潔な内容をスライドを用いて展開していきます。ただし、テーマによっては2~3週に渡る場合もあります(例:「発達障害」など)。「発達段階」や「知能」のような定番のテーマ(#2~#11)から、「感情」や「集団」といった対人関係の発達(#12~#21)、「いじめ」や「不登校」に代表される不適応の問題(#22~#30)に至るまで、子どもの心とその発達の変化を理解する上で欠かせないさまざまな内容を取り上げ、わかりやすく解説していきます。
履修上の留意点	- 1: 初回の授業で説明する「受講契約」(受講する上での基本的なルール)を確認してから、この授業を履修するか否かを慎重に判断してください。そのためにも、履修を希望する学生は、初回(もしくは、第二回)の授業に必ず出席するようにしてください。 - 2: 簡単な感想を毎回提出してもらうことになります。そして、次回の授業の冒頭にて、その一部を紹介しながら、受講生からの質問に答えたり、受講生の意見を直接伺ったりします。 - 3: 感想紹介や授業中のやり取りを通じて、受講生全員の顔と名前を一致させるように努めております。児童心理学に興味があり、かつ一定回数出席が見込める学生の受講を期待します。
成績評価の方法	- 授業で取り扱った内容全般に関する理解度の確認をするための課題から評価します。ガイダンスで説明する成績評価や受講契約などを十分に納得された上で履修登録してください。
教科書/テキスト	- 使用しません。なお、スライド画面を印刷して配布することはありませんので、あらかじめご了承ください。
参考書	- 使用しません。
その他	- 講義は全回に渡って「スライド」を用いて行われます。テキストやプリントの類は一切使用しませんから、投映された画面が頼りとなります。とはいえ、ノートテイクはあくまで「任意」です。スライドで表示する内容を最小限に抑えてある上に、見やすい配色やアニメーションにも留意しておりますので、回数を重ねることにノートテイクのコツがつかめていくものと思われます。

履修コード	065621 065622
科目名	児童福祉論
担当者名	村田 一昭

講義の到達目標(ねらい) 1989年に国連で子どもの権利条約が採択されて以降、「子どもの最善の利益」の追求を基本とした子どもの権利擁護サービスが重視され、伝統的な児童福祉から新たな児童福祉へと制度や実践の変革が進められてきています。そこでこの授業は、子どもと家庭を取り巻く現状を踏まえながら、子どもと家庭のウェルビーイング(well-being)をめざす新たな児童福祉である子ども家庭福祉について、その基本的枠組とソーシャルワーク実践に関する理解を深めることを目標にしています。

講義の内容／授業スケジュール

1. 子ども家庭福祉の理念
 - ①ウエルフェアからウェルビーイングへ (第1回)
 - ②子どもの権利条約 (第2回)
 - ③児童福祉法の基本原理 (第3回)
2. 子どもと家庭をめぐる最近の動向
 - ①少子化の動向と対策 (第4回)
 - ②子ども虐待の実態と対応 (第5回)
 - ③少年非行・少年犯罪の動向と対応 (第6回)
3. 子ども家庭福祉の法体系
 - ①児童福祉法 (第7回)
 - ②児童福祉六法 (第8回)
 - ③関連法 (第9回)
4. 子ども家庭福祉の実施体制
 - ①子ども家庭福祉行政の仕組み (第10回)
 - ②子ども家庭福祉の実施機関 (第11～12回)
5. 子ども家庭福祉への歩み (第13回)
6. 子ども家庭福祉施策の現状と課題 (第14回)
7. 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践の実際 (第15回)

履修上の留意点 可能な限り、受講生とのコミュニケーションを図りながら授業を進めたいので、質問や感想などをリアクションペーパーに積極的にコメントしてください。

成績評価の方法 課題レポートと期末試験に平常点（出席およびリアクションペーパー）を加味して評価します。

教科書／テキスト 高橋重宏・山縣文治・才村 純編「子ども家庭福祉とソーシャルワーク（第3版）」（社会福祉基礎シリーズ⑥児童福祉論） 有斐閣 ¥2,000
 ※授業内容により、プリントを配布します。

参考書 随時、紹介します。

その他 ①授業はパワーポイントを使用
 ②各テーマ終了時に小テスト実施
 ③YeStudy利用

履修コード	072101
科目名	社会心理学
担当者名	有光 興記

講義の到達目標(ねらい) 社会心理学と臨床—カウンセリング心理学の接点に焦点をあて、感情的、行動的問題の発現・診断・治療の過程を理解するために必要な社会心理学の基本的概念および理論について論ずる。他者の「まなざし」をきっかけに、我々は恥、あがり、罪悪感を経験し、行動を制御するが、過度な内気から人づきあいが困難になることがある。また、他者への意識は、化粧、ダイエットなどの外見への配慮や様々な自己アピールにつながる。前期(1-14回)では、こうした他者の存在と我々の心理状態の関係について講義を行う。後期(15-28回)では、主として「あがり」をテーマに、社会的状況、感情状態、その結果の関係を明確にして、対策としてストレスマネジメント、メンタルトレーニング、認知行動療法などの手法を紹介する。また、集団と組織の中での心理状態についても触れる。授業は、調査、実験を交えて行われる。本年度は特に感情の非言語的表出に關する実験と認知行動療法に関する調査を行い、分析も含めて解説する予定である。

講義の内容／授業スケジュール 以下の内容を講義する予定である。

第1回 社会心理学とは
 第2回 なぜ人は世間の目が気になるのか(ここから教科書使用)
 第3回 なぜ人は心にブレーキをかけるのか
 第4回 なぜ人は罪悪感をもつのか
 第5回 なぜそのとき気まづくなるのか
 第6回 なぜ人は嫌われていると感じるのか
 第7回 なぜ人は嫉妬するのか
 第8回 なぜ友だちとうまくいかないのか
 第9回 なぜその人は相手を傷つけるのか
 第10回 なぜ人は恋に落ちるのか
 第11回 男たちは結婚難にどう向き合うのか
 第12回 なぜ人は痩せたがるのか
 第13回 感情の機能(表出実験あり)
 第14回 前期試験
 第15回 前期試験の講評
 第16回 なぜ人はネットにはまるのか
 第17回 なぜその人は内定がもらえるのか
 第18回 対人認知(印象形成、被服、化粧)
 第19回 “あがり”経験とその状況による違い(ここから教科書変更)
 第20回 “あがり”の原因
 第21回 日本人は本当にプレッシャーに弱いのか
 第22回 “あがり”とその対処法
 第23回 メンタルトレーニングの実際
 第24回 社交不安障害の認知行動療法
 第25回 援助、怒り、集団の社会心理学(1)
 第26回 援助、怒り、集団の社会心理学(2)
 第27回 後期試験
 第28回 後期試験の講評

成績評価の方法 筆記試験を前期、後期に行う。また、授業中の課題の提出を評価する。試験と課題提出を総合して成績評価をずる。

教科書／テキスト 永房典之(編)『なぜ人は他者が気になるのか?』金子書房
 有光興記『あがりは味方にできる』メディアファクトリー

参考書 有光興記・菊池章夫編『自己意識的感情の心理学』北大路書房
 池上知子・遠藤由美(共著)『グラフィック社会心理学』サイエンス社

その他 授業の方法は講義とする。その他、授業内容に関連した調査、実験への参加が求められる。

履修コード	073801
科目名	宗教心理学
担当者名	加藤 博己

講義の到達目標(ねらい) 宗教心理学は、特定の宗教教義や価値観にとらわれることなく、宗教を客観的にとらえようとするもので、「宗教心理」の学問的研究と、「宗教」の心理学的研究との学際的研究領域にある学問として捉えることができる。本講義では、特に後者に重点を置き、本年度は、宗教心理学、ならびに、その下位分野として位置づけられる（心理学的アプローチによる）仏教心理学と禅心理学を概観する。特に、これらの研究領域における知識の獲得にとどまらず、心理学的な視点（クリティカル・シンキング）による事象の把握、理解といった態度を身につけることで、宗教心理学的事象を読み解く力を涵養することを目指す。

講義の内容／授業スケジュール 前期：
0. オリエンテーション（講義のねらい、形式、内容、進め方、評価方法、注意事項等の確認）
1. 宗教とは、2. 心理学とは、3. 宗教と心理学との同異、4. 宗教学と心理学、5. 宗教心理学、6. 心理学的アプローチによる宗教心理学（人格心理学、青年心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学的アプローチや瞑想研究など）
後期：
1. 禅とは、2. 仏教とは、3. 禅心理学（これまでの研究成果、問題点、課題）、4. 初期仏教とは、5. 仏教心理学

準備学習 心理学科2年～4年生を対象とした選択授業の1つとしての配当科目となるので、心理学の基礎知識を有していることを前提とする。1年時必修科目「心理学概論」における内容を復習し、心理学とはどのような学問であるのかを確認しておくこと。
授業内で参考文献を多数紹介するので、各自でそれらの論文のコピーや図書を入手し、短期間で目を通すことが求められる。

履修上の留意点 履修希望者は、初回授業のオリエンテーションに必ず出席し、講義のねらい、形式、内容、進め方、評価方法等をよく理解した上で受講すること。
一方的な講義とせず、授業内において、挙手や指名による積極的な発言を促したり、アンケートを行ったり、学生同士が2人ペアやグループになり討論を行ったりすることで、心理学的な視点・態度を涵養し、宗教心理学への理解を深める。

成績評価の方法 前期（7月）に授業内試験を、定期試験期間内に、定期試験を行う。その他、出席点や授業参加点等による総合評価を行う。詳細は、初回授業のオリエンテーションで述べる。

教科書／テキスト 指定しない。参考書・論文を授業内で紹介する。

参考書 島蘭 進・葛西賢太・福嶋信吉・藤原聖子（編）2006年『宗教学キーワード』有斐閣 1,995円（本体1,900円＋税）ISBN 4-641-05883-0
葛西賢太 2010年『現代瞑想論—変性意識がひらく世界』春秋社 2,940円（本体2800円＋税）ISBN 978-4-393-36511-3
井上ウィマラ 2010年『看護と生老病死 仏教心理で困難な事例を読み解く』三輪書店 2,520円（本体2,400円＋税）ISBN 978-4-89590-367-7
橋本泰子（編）2010年『ありがとう療法 入門編 幸せになる自己カウンセリング』おうふう 1,680円（本体1,600円＋税）ISBN978-4-273-03627-0
橋本泰子（編）2010年『ありがとう療法 実践編 幸せになる自己カウンセリング』おうふう 1,260円（本体1,200円＋税）ISBN978-4-273-03630-0

履修コード	075001 075002 075003
科目名	宗教人類学
担当者名	佐藤 憲昭

講義の到達目標(ねらい) 宗教人類学は、文化人類学の視点と方法から諸民族の宗教文化について比較研究をする学問である。そして、その営為を通して「人間とは何か」という問題に答えようとするものである。本年度は、人類に根源的・普遍的な文化のひとつに数えられている憑霊（ひょうれい）文化を取り上げる。
日常語で「私はツイテイル」という場合のツキとは、神霊・精霊が憑いていることを本来は意味しているが、日常の会話ではツキの正体を不問にしている。神霊・精霊が憑いている現象は憑霊現象と呼ばれるが、その内容はささぶる多岐にわたっている。本講では宗教人類学の考え方を学習した後に、日本を含むアジアの諸地域で生起している憑霊文化を取り上げ、社会組織との関係を含むさまざまな角度から考察する。そして、憑霊文化を通して人間理解の可能性を探ってみたい。

講義の内容／授業スケジュール 次のテーマのもとに具体的に考察する。
第1～2回 宗教人類学の学問的特徴、第3～4回 憑きもの研究と憑霊研究、第5～7回 憑霊研究とシャーマニズム研究、第8～10回 憑霊文化と脱魂文化、第11～13回 人間の憑霊と事物の憑霊、第14～16回 憑霊の連鎖現象、第17～21回 憑霊と民俗宗教・民俗仏教、第22～26回 憑霊型シャーマニズム、第27～29回 憑霊現象と社会組織、第30回 憑霊文化から見た人間理解の可能性。

履修上の留意点 出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。

成績評価の方法 学年末のリポート（2400字～2800字）で評価する。合格の基準は、1. 講義内容を踏まえていること、2. 参考文献を読みこなしていること、3. みずからの言葉で論じていること、の三点にある。なお、追試験は実施する。

教科書／テキスト 使用しない。

参考書 授業中に適宜紹介する。

履修コード	058641
科目名	宗教文化論A
担当者名	芳賀 学

講義の到達目標(ねらい) この講義では宗教という人間社会にかなり普遍的な現象を取り上げ、それが、個人の精神的な支えとなり、社会の安定(および変化)に大きな役割を果たすことを社会的に概説する。具体的には、まず、セルフ・アイデンティティの維持(または変更)とのかかわりで宗教を捉える視角を提示し、その上で、日本社会の近代化プロセスを事例として、ライフスタイルや人びとの意識の変化と新宗教の拡大との関係を分析することによって、社会と宗教との密接な結びつきを明らかにする。このことを通じて、受講学生個々の「宗教を理解する力」の養成と向上を目指す。

講義の内容／授業スケジュール (1) イントロダクション(2~5) アイデンティティとその揺らぎ、認知的不協和の理論と不幸の神義論、アイデンティティの社会的性、アイデンティティと宗教(6~10) 新宗教とは何か: 教団ライフサイクル説、思想、組織、信者、活動(11~15) 新宗教と近代化: 幕末維新期、代表的教団としての天理教、明治末から昭和初期、敗戦直後の状況、高度経済成長期、近代化の気密室としての新宗教

履修上の留意点 結論を急がない粘り強い思考と、物事の良い面と悪い面を同時に視野に収める複眼的視角を取るよう努めてください。

成績評価の方法 学期末試験と授業期間内に提出を求めるミニレポートとの総合評定で行います。

教科書／テキスト 使用しません。

参考書 ・井上順孝『新宗教の解説』筑摩書房、1,155円、ISBN: 9784480082732
・井上順孝ほか編『新宗教事典』弘文堂、25,200円、ISBN: 9784335160189

履修コード	058651
科目名	宗教文化論B
担当者名	芳賀 学

講義の到達目標(ねらい) この講義においては、宗教という社会現象を取り上げ、それが現代の日本社会においてどのような変化・展開を遂げているかを社会的な観点から概説する。具体的には、1980年代以降の日本社会に時間空間を限定して、伝統宗教と新宗教をめぐる状況の変化(カルト問題を含む)と、宗教を名乗らない広範な精神文化(=グレーゾーン)の拡大、という両面の現象群を取り上げ、それらが私たちのライフスタイルや価値意識と密接に連動して存在することを明らかにする。このことを通じて、受講学生個々の「現代社会と宗教とのかかわりを読み解く力」の養成と向上を目指す。

講義の内容／授業スケジュール (1) イントロダクション(2) 教団勢力の退潮とグレーゾーンの拡大(3~4) 1980年代以降の新宗教: 「親密さ」と自己表出の欲求、3タイプの対戦戦略(5~11) グレーゾーンの諸現象: 自己啓発セミナー、背景としての消費社会、セルフ・ヘルプ・グループ、ネットワーク・ビジネス、エステ・サロン、占い、ヒーリング(12~13) オウム真理教とカルト問題: オウム真理教事件の概略、マインドコントロール説再考(14~15) 現代日本人のライフスタイル: その変化と特徴、パラドクスとその対応

履修上の留意点 結論を急がない粘り強い思考と、物事の良い面と悪い面を同時に視覚に収める複眼的視角を取るよう努めてください。

成績評価の方法 学期末試験と授業期間内に提出を求める課題との総合評定で行います。

教科書／テキスト 使用しません。

参考書 ・井上順孝『新宗教の解説』筑摩書房、1,155円、ISBN: 9784480082732
・伊藤雅之・榎尾直樹・弓山達也編『スピリチュアリティの社会学』世界思想社、1,995円、ISBN: 9784790710936

履修コード	065421 065422
科目名	障害者福祉論
担当者名	桐原 宏行

講義の到達目標(ねらい) ・障害の本質及び障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について理解する
・障害者福祉制度の発達過程について理解する
・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者福祉に係る他の法制度について理解する

講義の内容／授業スケジュール 第1回: 本科目のねらい・進め方について
第2回: 障害とは何か①(身体障害の理解)
第3回: 障害とは何か②(知的障害・発達障害の理解)
第4回: 障害者福祉の理念
第5回: 障害者の概念と定義
第6回: 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
第7回: 障害者福祉制度の発達過程
第8回: 障害者基本法
第9回: 障害者自立支援法①(制度移行)
第10回: 障害者自立支援法②(制度解説1)
第11回: 障害者自立支援法③(制度解説2)
第12回: 障害者自立支援法④(制度解説3)
第13回: 障害者福祉関連法の概要①(身体障害者福祉法、知的障害者福祉法)
第14回: 障害者福祉関連法の概要②(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、発達障害者支援法)
第15回: 授業内試験

履修上の留意点 本科目は、社会福祉士法の改正により変更された科目である。平成21年度以降入学者(平成20年度以降の入学者で単位未修得者も含む)で社会福祉士受験資格取得予定者は履修しなければならない。なお、平成20年度以前の履修者で、同一名称科目「障害者福祉論(4単位科目)」をすでに履修し単位を取得した者は再履修できないが、法改正で科目内容が改正されており、本年度の社会福祉士国家試験から「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の科目で試験が実施されるため、その対策には十分注意する必要がある。
履修者は、「社会福祉原論」及び「社会福祉援助技術総論」の単位を取得していることが望ましい。

成績評価の方法 授業内試験又はレポートの提出70%、出席点30%

教科書／テキスト 福祉臨床シリーズ編集委員会編 日比野清、大熊信成、建部久美子責任編集、『社会福祉士シリーズ14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』、弘文堂、2,625円 ISBN978-4-335-61084-4 C3347

その他 YeStudyを活用します。

履修コード	074801
科目名	情報処理 I
担当者名	久保 尚也

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、心理学実験制御用プログラムの作成に必要な知識や技術の習得を目的とする。

授業では、初心者でも容易にプログラミングを行うことが可能なVisual Basic (以下、VB) の基礎技術および、実験制御用プログラム作成への応用方法を学ぶ。

また、Visual Basic for Applications (以下、VBA) によるデータ処理プログラム等の作成についても併せて学習する。

授業は実習形式で行い、IT系の資格試験 (VB検定等) で必要とされる知識についても適宜紹介する。

講義の内容／授業スケジュール

【前期】

- ・オリエンテーション (1 回目)
- ・VBの基礎技術 (2~15)
 - ① VBの基本操作とフォームデザイン, ②イベントプロシージャの作成,
 - ③時間制御, ④条件分岐の設定, ⑤ループ処理, ⑥ランダムイズ,
 - ⑦データ保存方法 等

【後期】

- ・実験制御用プログラム作成への応用 (16~21)
- ・VBAの基礎技術およびプログラムの作成 (22~30)
 - ①マクロの記録, ②マクロの保存, ③Subプロシージャの作成
 - ④ループ処理, ⑤プログラム作成 等

履修上の留意点 USBフラッシュメモリーを持参すること

成績評価の方法 出席日数 (2/3以上), 小テスト, プログラム作成課題, 授業態度等により総合的に評価する

教科書／テキスト 適宜, 資料を配布する

参考書 随時紹介する

履修コード	074901
科目名	情報処理 II
担当者名	軽部 幸浩 堀内 正彦

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、コンピュータ実習などを通じて身に付けたコンピュータ・リテラシーを十分に活用し、情報処理に関するより深い理解とより高度な技術の習得を目的とする。コンピュータを使ったデータ解析を中心におこない、コンピュータを用いて卒業論文レベルの実験データの分析が独力で可能となることをめざす。単に統計パッケージの使い方をマスターするのではなく、統計的手法の基本を含めて学習する。

講義の内容／授業スケジュール

授業は講義形式に加え、主に実習形式でおこなう。1つのテーマに1から5時限をあて、毎回課題の提出を求め、今年度の具体的な内容については以下に記す。なお、履修生の習熟度に応じて適時授業内容の変更もおこなおうと考えている。

=====**【前期】**=====

- ◆主にSPSSを利用した分散分析などの統計処理および分析方法の理解
 - ・データ解析と統計的手法の基礎 (基本統計量, t検定, 分散分析, χ^2 乗検定)
 - ・SPSSの操作方法の理解
 - ・データ取得から分析までの総合演習

=====**【後期】**=====

- ◆主に[SAS, <http://www.sas.com/offices/asiapacific/japan/>] を利用しての統計処理および分析方法の理解
 - ・データ解析と統計的手法の基礎 (基本統計量, 相関と回帰, 仮説検定, 多変量解析の基礎)
 - ・SASの操作方法の理解
 - ・SASプログラムの書き方
 - ・他のアプリケーションとの連携 (データハンドリング)
 - ・データ取得から分析までの総合演習
- ◆成果の発表や公開に関すること (時間的に可能な場合に実施予定)
 - ・コンピュータを使ったプレゼンテーション

準備学習 ◆予習よりも復習である。
◆過去におこなった授業内容を忘れないようにする。

履修上の留意点 コンピュータ実習の単位を習得している、またはそれと同等もしくはそれ以上の知識を有していること。本講義は、実習形式でおこなうことが多いので、2回以上続けて欠席すると授業の内容が理解できなくなるので注意を要する。授業時間内だけでは絶対的に実習時間が不足するので、自習室等を利用した自習が必要となる場合もある。

成績評価の方法 出席および課題の提出を前提とし、学期末におこなう筆記試験と合わせて総合的に評価する。ただし、講義の理解の程度、履修人数、実習での応用力の程度によっては定期試験期間での期末試験を免除する場合もある。

教科書／テキスト ◆授業中に配布するプリント教材

参考書 ◆参考書については、授業中に適宜紹介する
◇コンピュータ実習で使用した教材
◇心理統計学で使用した教科書や教材

=====**【SPSS 関係】**=====

- ・石村貞夫 『SPSSによる分散分析と多重比較の手順 [第3版]』 東京図書, ¥2,940, ISBN: 978-4489007293
- ・竹原卓真 『SPSSのすすめ (1) 2要因の分散分析をすべてカバー』 北大路書房, ¥3,360, ISBN: 978-4762825514
- ・山内光哉 『心理・教育のための分散分析と多重比較 ―エクセル・SPSS解説付き―』 サイエンス社, ¥3,465, ISBN: 978-4781911878

=====**【SAS 関係】**=====

- ・竹内啓監修, 市川伸一・大橋靖雄・岸本淳司・浜田知久馬 著 『SASで学ぶ統計的データ解析 (1) SASによるデータ解析入門 [第2版]』 東京大学出版会, ¥3,570, ISBN: 4-13-064048-8

その他 【e-Learning】 [<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>, <https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>]

履修コード	071901
科目名	人格心理学
担当者名	鈴木 常元

講義の到達目標(ねらい) 人格心理学の理論とその背景について総合的に学ぶ。前期は、人格心理学の歴史的背景について解説した後、人格心理学のさまざまな理論を紹介していく。すなわち、精神分析的アプローチ、行動主義的アプローチ、現象学的アプローチである。後期には、人格形成に重点をおいた発達心理学的な立場を紹介し、最後に、人格の問題を異常心理学の観点から考える。それぞれの理論は、孤立したのではなく、お互いに関連し合っていることを、授業を進める中で理解してほしい。また、人格という複雑なトピックをさまざまな立場から総合的に理解することを旨とし、心理学以外の分野の理論等も随時参照するので、幅広い知識を持った学生の受講を歓迎する。

講義の内容／授業スケジュール

第1回 ガイダンス
 第2～3回 人格の定義・人格の研究史
 第4～5回 精神分析的アプローチ
 第6回 行動主義的アプローチ
 第7～8回 現象学的アプローチ
 第9回 その他のアプローチ
 第10～11回 類型論と特性論
 第12回 実験人格心理学
 第13回 人格心理学と臨床現場
 第14回 テスト
 第15回 前期のまとめ
 第16～17回 発達と人格-乳幼児期
 第18回 発達と人格-青年期
 第19回 発達と人格-成人期・老人期
 第20回 発達と人格-家族
 第21回 人格の正常・異常-統合失調症
 第22回 人格の正常・異常-躁うつ病
 第23回 人格の正常・異常-神経症
 第24回 人格の正常・異常-人格障害
 第25～26回 人格の正常・異常-多重人格
 第27回 人格とストレス
 第28回 人格のアセスメント
 第29回 テスト
 第30回 全体のまとめ

成績評価の方法 学期末のテストの成績に、授業への出席を加味し、総合的に評価する。

参考書 人格心理学-パーソナリティと心の構造 鈴木乙史・佐々木正宏 河出書房新社
 入門人格心理学 加藤義明・中里至正(編) 八千代出版
 性格心理学への招待 詫摩武俊ら サイエンス社

履修コード	070901
科目名	心理学概論
担当者名	間島 英俊

講義の到達目標(ねらい) 心理学は人間の心の理解を科学的に究明する学問のひとつである。研究方法はさまざまであるが、その目的は同じである。この講義では、諸君らがその目的を考えるために、心理学の各領域の基本的事実を、わたしたちの日常生活の中から説明していきます。

講義の内容／授業スケジュール

ガイダンス
 1 ひととなりを考える：パーソナリティ心理学
 2 自己から自己へのタイムトラベリング：発達心理学
 3 “こころ”のゆきづまり：臨床心理学
 4 人と人との絆：社会心理学、家族心理学
 5 みること・きくこと：知覚心理学
 6 学ぶこと・考えること：学習心理学、認知心理学
 7 ことばとコミュニケーション：言語心理学
 これらのテーマに基づいて、1テーマ4時間をかけ、講義を中心に簡単な調査、検査、小実験を行います。

履修上の留意点 この講義は卒論、修論のデータ収集に率先して協力します。調査・実験協力者となることにより、次に諸君らの卒論における実施者としての姿勢に備えるためです。そのために「実験参加カード」を配布し、その参加ポイント数により授業評価に反映されます。

成績評価の方法 3分の2以上の出席は必須です。基本的には最終講義時間にて実施される授業時間内試験(定期試験と同価値)にて8割、残り2割は実験・調査参加(1割)並びに課題(1割)により評価される。

教科書／テキスト 中村昭之編『心理学概説』八千代出版

参考書 講義にて紹介します。資料はその都度配布しますが、欠席した者への後日配布はしないので、休んだ分は友人に依頼してもらるかコピーにて補充のこと。

履修コード	071401
科目名	心理学基礎実験
担当者名	谷口 泰富 深堀 友党 桑原 正修 小野 洋平 堀 直人

講義の到達目標(ねらい) 現代心理学は実験という方法を取り入れることにより、飛躍的に発展してきた。言葉をかえて言えば、現代心理学の主要な部分は実験によって得られた知識によって成り立っているといっても過言ではない。従って、心理学を学ぶものは、どのような領域に関心があるものでも、必ず実験について十分習熟していることが求められる。本実習は、5つの代表的実験を選び、実験デザイン、実施方法、結果の処理方法を実習を通して身につけることを目的とする。さらに、実験レポートの作成方法について詳しく指導する。

講義の内容／授業スケジュール 「心理学基礎実験テキスト」に従って実習を行う。なお、各課題に共通して、分析には統計解析ソフトを用いる。また、詳細についてはオリエンテーションの時間(4月12日)に説明するので、必ず出席すること。

履修上の留意点 実習はグループ単位で実施するので、遅刻・欠席をしないこと。

成績評価の方法 成績は出席状況(遅刻は2回で1回分の欠席扱い)、全課題の実験レポート、実験参加回数から総合的に評価する。なお、詳細はオリエンテーションの時間に説明する。

教科書／テキスト 心理学研究室編の『心理学基礎実験テキスト』を配布する。

参考書 日本心理学会編『執筆・投稿の手びき2005』を配布する。

履修コード	071501
科目名	心理学基礎実験
担当者名	谷口 泰富 深堀 友覚 桑原 正修 小野 洋平 堀 直人

講義の到達目標(ねらい)	現代心理学は実験という方法を取り入れることにより、飛躍的に発展してきた。言葉をかえて言えば、現代心理学の主要な部分は実験によって得られた知識によって成り立っているといっても過言ではない。従って、心理学を学ぶものは、どのような領域に関心があるものでも、必ず実験について十分習熟していることが求められる。 本実習は、5つの代表的実験を選び、実験デザイン、実施方法、結果の処理方法を実習を通して身につけることを目的とする。さらに、実験レポートの作成方法について詳しく指導する。
講義の内容／授業スケジュール	「心理学基礎実験テキスト」に従って実習を行う。なお、各課題に共通して、分析には統計解析ソフトを用いる。また、詳細についてはオリエンテーションの時間(4月12日)に説明するので、必ず出席すること。
履修上の留意点	実習はグループ単位で実施するので、遅刻・欠席をしないこと。
成績評価の方法	成績は出席状況(遅刻は2回で1回分の欠席扱い)、全課題の実験レポート、実験参加回数から総合的に評価する。なお、詳細はオリエンテーションの時間に説明する。
教科書／テキスト	心理学研究室編の『心理学基礎実験テキスト』を配布する。
参考書	日本心理学会編『執筆・投稿の手びき2005』を配布する。

履修コード	071601
科目名	心理学基礎実験
担当者名	谷口 泰富 深堀 友覚 桑原 正修 小野 洋平 堀 直人

講義の到達目標(ねらい)	現代心理学は実験という方法を取り入れることにより、飛躍的に発展してきた。言葉をかえて言えば、現代心理学の主要な部分は実験によって得られた知識によって成り立っているといっても過言ではない。従って、心理学を学ぶものは、どのような領域に関心があるものでも、必ず実験について十分習熟していることが求められる。 本実習は、5つの代表的実験を選び、実験デザイン、実施方法、結果の処理方法を実習を通して身につけることを目的とする。さらに、実験レポートの作成方法について詳しく指導する。
講義の内容／授業スケジュール	「心理学基礎実験テキスト」に従って実習を行う。なお、各課題に共通して、分析には統計解析ソフトを用いる。また、詳細についてはオリエンテーションの時間(4月12日)に説明するので、必ず出席すること。
履修上の留意点	実習はグループ単位で実施するので、遅刻・欠席をしないこと。
成績評価の方法	成績は出席状況(遅刻は2回で1回分の欠席扱い)、全課題の実験レポート、実験参加回数から総合的に評価する。なお、詳細はオリエンテーションの時間に説明する。
教科書／テキスト	心理学研究室編の『心理学基礎実験テキスト』を配布する。
参考書	日本心理学会編『執筆・投稿の手びき2005』を配布する。

履修コード	071701
科目名	心理学研究法
担当者名	堀 耕治

講義の到達目標(ねらい)	現代心理学は科学の一分野である。したがって心理学における研究法の論理も科学一般の考え方で理解できる部分が多い。しかし「ところ」と行動を研究対象とすることから、他の科学分野における研究とは異なる性格もあわせ持っている。この授業はこうした心理学の普遍性と特殊性の両方にできるだけ目配りしながら、主要な心理学研究法の考え方と実際を解説する。また心理学における研究行為とはどのようなものであるかを、研究のプロセスを追いながら具体的に紹介しつつ、研究を進める上で役立つさまざまな技術もできるだけ紹介したい。卒業論文等のため自分自身で研究をおこなうことになったとき、研究の構想や企画、研究方法の選択や構成、データ収集、結果の解析と公表など、研究の各段階を適切に実行するための基礎を身につけることがこの授業の目標である。
講義の内容／授業スケジュール	第1-2回 序論：心理学の方法と科学 第3-4回 研究の準備の前に：問題の見つけ方、見つけ方 第5-6回 研究の準備1：先行研究の研究、情報収集 第7-8回 研究の準備2：「装置」、研究法の選択・考案、条件の検討など 第9回 研究の実施 第10-11回 さまざまな方法、さまざまな技術 第12-13回 観察法 第14-15回 実験の論理 第16-18回 群デザインによる実験 第19-21回 単一被験体法による実験 第22-23回 質問紙法 第24回 検査、面接 第25-26回 データ解析 第27-28回 結果のまとめ方 第29回 公表：学会での発表と論文 第30回 研究環境：研究倫理と研究の道
成績評価の方法	授業中に随時おこなうクイズ(小テスト) [30%] と期末試験 [70%] により評価する。
教科書／テキスト	使用しない。随時、資料を配付する。
参考書	随時紹介する。

履修コード	072601
科目名	心理学実験演習I
担当者名	小室 央允

講義の到達目標(ねらい)	心理学的研究の実験および調査において必要とされる技術の習得を目的とする。
講義の内容／授業スケジュール	実験2回と調査2回を実施し、各課題終了後にレポートを提出する。 前期：実験Ⅰ EEGバイオフィードバック(t検定等) 実験Ⅱ 呼吸活動(分散分析等) 後期：調査Ⅰ 質問紙の作成(因子分析等) 調査Ⅱ 作成した質問紙と別の構成概念との関連性(相関分析等)
成績評価の方法	出席(2/3以上)、レポート(計4回)、授業態度、実験参加者カードにより評価する。
教科書／テキスト	資料を配布する。

履修コード	072701
科目名	心理学実験演習II
担当者名	久保 尚也

講義の到達目標(ねらい)	本講義は、心理学研究において必要とされる実験・調査の手法および、取得データの分析の方法を実習形式の授業を通じて学ぶ。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期・後期とも、実験・調査の実習をそれぞれ2回ずつ行い、通年で計4種の課題に取り組んでもらう。実験・調査は、学習心理学に関連するトピックを中心に扱う。 また、各課題終了時にレポート提出を課す。 【前期】 ・オリエンテーション (1回目) ・実験1：評価条件づけ (2～8回) ・調査1：無力感尺度 (9～15回) 【後期】 ・実験2：概念弁別 (16～22回) ・調査2：価値割引 (23～30回)
履修上の留意点	・USBフラッシュメモリーを持参すること ・実習科目なので、できる限り欠席はしないようにすること
成績評価の方法	レポート(年4回)、出席日数(2/3以上)、実験への参加および授業態度等により総合的に評価する
教科書／テキスト	適宜、資料を配布する
参考書	随時紹介する

履修コード	072801
科目名	心理学実験演習III
担当者名	中澤 世都子 深堀 友覚

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、2年次に履修した「心理学基礎実験」の内容をさらに拡充し、卒業論文作成に必要なとされる基本的な手続きの習得を目的に、実験及び調査法を用いて論文作成へのプロセスを学ぶ。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期に実験2回、後期に調査2回の計4課題の実習を実施し、各課題の終了時にレポートを課す。前期では心理的時間に関する実験計画の作成、SPSS(PASW)を用いた統計学的処理の方法とその解釈、論文(レポート)の書き方について、計14回の講義を行う。後期では、性格や対人関係をテーマにした調査を実施し、質問紙法を用いて論文執筆する際の留意点を踏まえた全行程を体験する。
準備学習	履修する上で、エクセルを用いてデータ入力ができることを受講の最低要件とする。
履修上の留意点	実験及び調査はグループワークで行うので欠席はできる限りしないように留意すること。欠席することによってグループワークに支障をきたすということを肝に銘じておくように。
成績評価の方法	3分の2以上の出席、授業態度及び傾聴姿勢、各実験・調査終了後のレポート(計4回)により総合的に評価する。なお実験参加者カードに記載される実験協力回数も加点項目として考慮する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	山田剛史・村井潤一郎 「よくわかる心理統計」 ミネルヴァ書房 2,800円＋税 ISBN4-623-03999-4

履修コード	072901
科目名	心理学実験演習IV
担当者名	佐藤 理晴

講義の到達目標(ねらい)	知覚実験、調査に必要な技術(刺激の作成、統計パッケージソフトの使用方法など)の習得を目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	実験2回、調査2回を実施する。各実験(調査)では、手続きの確認、統計処理の結果などの中間発表を行い、終了時にレポートを課す。 実験1：運動刺激に対するフラッシュラグ効果(t検定、分散分析) 調査1：心像鮮明性と認知課題成績の関連(t検定) 実験2：視覚探索(分散分析) 調査2：SD法による感覚刺激の印象評価(因子分析)
履修上の留意点	コンピュータを利用する作業が多いので、バックアップ用メディア(USBフラッシュメモリなど)を毎回持参すること。実験の刺激作成にはSuperLab、Visual C++、統計処理にはSPSSを使用する予定だが、予備知識は不要である。
成績評価の方法	レポート(4回)、出席日数(2/3以上を必須条件とする)および授業態度、心理学実験演習以外の実験への参加回数を評価の対象とする。レポート評価は最終的な成果物だけでなく、途中経過の発表・提出状況も考慮して行う。
教科書／テキスト	なし(資料は授業時間内に配布する)
参考書	授業時間内に紹介する。

履修コード	073001
科目名	心理学実験演習V
担当者名	堀内 正彦

講義の到達目標(ねらい)	心理学における研究，ならびにその方法論について，実習を通して経験的に理解し，研究を行う上で必要なスキルを習得する。
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>前期に実験2回，後期に調査2回の計4課題の演習を行い，各課題終了時にレポートを課す。また，心理学基礎実験と同様にグループに分かれて授業を進める。</p> <p>各課題は次のように進行する予定である。</p> <p>a) 問題の設定（文献検索，先行研究の概観を含む）</p> <p>b) 実験・調査手続きの決定と準備，</p> <p>c) 実験・調査の実施</p> <p>d) データの整理と分析，</p> <p>e) レポートの作成・発表</p> <p>年間スケジュールは次の通りである。</p> <p>(1) オリエンテーション，班分け</p> <p>(2～8) 実験1：分析にχ^2乗分析を用いる実験（認知心理学分野を予定）</p> <p>(9～15) 実験2：分析に分散分析を用いる実験（認知心理学分野を予定）</p> <p>(16～22) 調査1：分析に因子分析を用いる調査（社会心理学分野を予定）</p> <p>(23～30) 調査2：分析に重回帰分析を用いる調査（社会心理学分野を予定）</p>
成績評価の方法	出席状況（2/3以上が必須），各課題終了時のレポート（計4回），授業態度により総合的に評価する。
教科書／テキスト	適宜，資料を配布する。
参考書	適宜，紹介する。

履修コード	073101
科目名	心理学実験演習VI
担当者名	軽部 幸浩

講義の到達目標(ねらい)	本講義は，生理心理学的測定技法，機器の操作方法および資料の分析方法等についての学習を目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>機器等はかなり整備されているが，受講生の数によっては，内容を一部変更することがあり得る。したがって，受講者が決定した後に，年間実習計画予定表を決定する。生理測定（2回），調査実習（2回）を予定している。</p> <p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容の説明とYeStudyの登録（1） 1) 開閉眼条件における脳波を測定（2～12） <ul style="list-style-type: none"> ・ 測定機器：脳波計 ・ 指標：脳波 ・ 内容：開閉眼状態での脳波測定 ・ 分析：二元配置分散分析 2) 脳波と性格特性（13～15） <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容：MPI得点と脳波出現率の関係 ・ 分析：相関分析，MPIの多変量解析 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3) 慣れと脱慣れ（1～11） <ul style="list-style-type: none"> ・ 測定機器：ポリグラフ ・ 指標：皮膚電気活動，呼吸，心電図 ・ 内容：異なる刺激による慣れと脱慣れを測定 ・ 分析：t検定 4) 慣れと不安（12～15） <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容：STAIと自律神経系活動の関係 ・ 分析：相関分析，重回帰分析
準備学習	なお，内容は主として生理心理学的測定であるので，2年次までに生理心理学を受講した学生の履修が望ましい（編入学生，3年次への転部・転科生は除く）。
履修上の留意点	<p>精密機器を扱うことが多く，危険防止のためにも細心の注意を持って実習に臨むこと。また，生理学的測定のためだけに特別に用意されている実験室へ入室するので，機器の破損，危険回避の観点から，服装についてもきちんとした装いで受講することが望ましい。</p> <p>受講生をいくつかのグループに分け，各グループが異なる実験をおこなう。したがって，グループ編成のためにも初回の説明会には必ず出席すること。遅刻や欠席については厳しく指導する。</p>
成績評価の方法	提出されたレポート，出席回数，授業および実験への参加状態，実習態度，服装などから総合的に評価する。
教科書／テキスト	随時，最新のものを紹介する。
参考書	随時，最新のものを紹介する。
その他	<p>実験データの分析・統計処理は，「MS-Excel」と「Excel統計」または，「SAS」，「SPSS」等の統計パッケージを使用しておこなう。そのため，数回程度は，実験室を離れコンピュータ教場で授業をおこなうことがある。</p> <p>また，卒業論文等で生理心理学的指標を用いての実験を考えている学生は，測定機器の操作方法を習得するための授業なので必ず履修すること。</p> <p>【授業Web】 {http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/}, {http://wwwint2.int.komazawa-u.ac.jp/~karube/jugyo/}</p> <p>【e-Learning】 {https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/}, {https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/}</p>

履修コード	073201
科目名	心理学実験演習VII
担当者名	間島 英俊

講義の到達目標(ねらい) 本実験演習は発達心理学領域における研究アプローチを総合的に学ぶことを目的とする。そのために、講義内容は以下の発達に関する基礎的実験並びに調査からなる。

- 講義の内容／授業スケジュール**
- 1 オリエンテーション(1・2回目)
演習の目的 授業スケジュール 成績評価etcの説明
 - 2 実験I(共通) 思考の発達(問題解決;組合せ問題)
実験 結果(信頼性分析) 実験の発表会および講評
 - 3 調査I(共通) ライフイベントに関する調査
テーマについてはライフイベントとライフサイクルを予定
調査 結果(尺度分析法) 調査の発表会および講評
 - 4 実験・調査の発表会および講評
 - 5 実験I、調査Iは前期にて終了予定
 - 6 調査II 個人または共同による研究
テーマ設定 調査 結果(尺度分析 相関分析 因子分析 信頼性分析) 調査の発表会および講評
 - 7 調査III(個人または共同) 卒論に向けた研究計画
テーマ設定 調査 結果
 - 8 調査II、IIIの発表論文の提出
総評

履修上の留意点 初回の演習オリエンテーションには必ず出席して、説明を聞いて履修を決めてください。

成績評価の方法 出席は10点; 2/3以上出席必須、年4回の研究発表40点、並びに発表論文提出50点をめどに評価がなされます。

教科書／テキスト 特に指定はしません。

参考書 教材、資料についてはその都度コピーにて配布しますし、参考図書については各実験・調査内にて紹介します。

履修コード	075811
科目名	心理学特殊演習
担当者名	有光 興記

講義の到達目標(ねらい) 臨床心理学(認知行動療法、応用行動分析)、社会心理学に関する重要文献を読み、実験、調査を行うことで、卒業論文への準備を進める。その過程で、論文の書式、統計手法、最新の知見、発表の仕方について学ぶ。最終目標は、卒業論文のテーマ設定を行い、研究計画を立てることである。テーマが共通している人で、グループを組むこともあり得る。

- 講義の内容／授業スケジュール**
- 以下のような授業内容を予定している。
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回～第4回 研究室テーマの紹介(「あがり」など社会的感情、認知行動療法)
 - 第5回～第8回 重要文献の論文発表 1人1回ずつ 45分制限
 - 第9回～第14回 感情心理学の実験実習(2グループによる作業となる。実験材料の収集、教示、刺激、質問紙の作成、実験の実施(社会心理学の授業と関連)、データ入力、データ分析、レポート作成を行う)
 - 第15回～第20回 質問紙調査実習(2グループによる作業となる。テーマ設定と質問項目の作成、調査実施(社会心理学の授業と関連)、データ入力、データ分析、レポート作成を行う)
 - 第21回～第22回 卒論関連の文献検索
 - 第23回～第26回 卒論関連の文献発表 1人1回ずつ 45分制限
 - 第27回～第28回 研究計画の発表 1人1回ずつ

履修上の留意点 演習時間外に、論文の読み方、テーマ設定などについて面接時間をとることがある。合宿や発表会での研究発表が義務付けられる。

成績評価の方法 課題の達成度、レポートの内容、発表内容から総合的に評価する。

参考書 適宜、紹介する。

履修コード	075101
科目名	心理学特殊演習
担当者名	茨木 博子

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、卒業論文作成の準備段階として、受講生の興味、関心のあるテーマについて文献を読み、発表、討議する中で実現可能な研究テーマを明確にし、研究計画を立てることを目的としている。またグループワーク(集団精神療法)を適宜導入し、臨床心理学の重要課題の一つである「より良い人間関係」について実践的に考える。

- 講義の内容／授業スケジュール**
- (1) 自己紹介とオリエンテーション(2～14)事前に文献を読み、調べた興味、関心のある研究テーマについて発表し、討論する。その過程で、研究可能なテーマかどうか検討し、指導、助言する。グループワーク(15)4年次生の卒業論文中間発表会出席(16～30)研究可能なテーマを明確化し、そのテーマに即した研究計画および方法を具体化するために、演習形式を主とした指導を行う。またその過程において、論文の書き方、研究の進め方について指導、助言する。グループワーク

履修上の留意点 卒業論文は、受講生にとって初めての研究であり、「私は、このテーマで研究したい」と思うことが大切である。しかし、研究したいテーマが実際に研究できるとは限らないので、最初から無理と思われるテーマは避けること。

成績評価の方法 出席、授業態度、発表内容などによって総合的に評価する。

参考書 随時紹介する。

履修コード	075821
科目名	心理学特殊演習
担当者名	鈴木 常元

講義の到達目標(ねらい) 本特殊演習の課題は以下の2つである。
 1. 催眠や自律訓練法をベースにしたイメージの表現(描画や粘土細工)を通して、それをどのように捉え(心理アセスメント)、心理面接にどのように生かしていくか(心理療法)を学びながら、臨床心理学の基本的な考え方を身につける。
 2. 卒業研究の準備を行いながら、研究の進め方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール
 第1回 ガイダンス
 第2～3回 臨床心理学研究法
 第4～11回 催眠・自律訓練法・イメージに関する文献購読と基礎的な実習
 第12～14回 卒業論文構想発表
 第15回 前期のまとめ
 第16～17回 臨床心理学研究法
 第18～24回 描画・粘土等を用いたイメージ療法の体験学習
 第25回 イメージ療法体験のまとめ
 第26～29回 卒業論文構想発表
 第30回 全体のまとめ

成績評価の方法 授業への出席、発表内容、他の受講生の発表に対する発言などを総合的に評価する。

参考書 催眠面接の臨床 栗山一八 九州大学出版会
 自律訓練法の実際 佐々木雄二 創元社

履修コード	075601
科目名	心理学特殊演習
担当者名	谷口 泰富

講義の到達目標(ねらい) 4年次の卒業論文が必修となっていますが、実証的研究の時間としては1年間では必ずしも十分ではありません。そこで本講では、将来の卒業論文作成に関する問題(テーマの決定、文献検索、研究の心理学的位置づけ、研究方法、資料分析方法、研究のまとめ方)について学習することを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 『卒業論文作成カルテ』に従い、計画的な指導を行います。(1)オリエンテーション、(2～4)テーマの決め方と卒業論文の書き方について、(5～7)個人別テーマ及び研究法の相談、(8～9)文献検索指導、(10～15)研究計画と文献研究の発表、(16～17)研究計画再点検、(18～21)予備研究、(22～23)予備研究資料の分析と研究計画の調整、(24～30)本研究指導

履修上の留意点 これまでに学んできた心理学の授業のみならず、その他の参考書などに基づき、自分の興味のある分野について大まかにでも考えておくことが望ましいです。授業は講義形式のみならず演習形式になりますので、遅刻や欠席は厳禁です。課題やレポートの提出が多くなります。そのためには、十分な準備の時間が必要となります。

成績評価の方法 研究報告書やレポートにより評価しますが、出席状況も考慮します。

教科書／テキスト 『卒業論文作成カルテ』を配布します。

参考書 随時紹介します。

履修コード	075201
科目名	心理学特殊演習
担当者名	茅原 正

講義の到達目標(ねらい) 3年次選択の「心理学特殊演習」は、対話討論方式の授業によるもので、4年次必修の「演習」に準ずる性格をもつ。したがって、この演習は卒業論文作成の準備段階としての役割を担っており、学生も2年間かけて卒論研究に取り組むことになるので、各人が、関心をもった自己のテーマをよく考慮した上で選択されたい。

講義の内容／授業スケジュール 意識の問題、心理的時間、瞑想の心理・生理、身心の統御、呼吸法などに関する欧文文献を輪読する。文献購読(前期)1～3 心理学における時間 4～6 線的時間体験の次元 7～9 持続の構成 10～11 薬物体験と時間 12～13 非線的時間体験後期は、各自の個人テーマに並行して、以下のような問題をとり上げる。1. ガイダンス 2～4 卒論の構想 5～7 文献・資料 8～10 データの収集について 11～12 データの分析について13まとめ 各自がテーマとする分野に関する報告を義務付ける。特に、年度の後半においては、各自の研究成果の発表、質疑応答を通して問題点を認識し、4年次の卒論作成に備える。

成績評価の方法 出席および発表・討論に対する積極性を重視し、評価する。

教科書／テキスト R.E.Ornstein The Psychology of Consciousnessの予定である。プリント配布。

参考書 参考書・文献等については、随時紹介する。

履修コード	075401
科目名	心理学特殊演習
担当者名	永田 陽子

講義の到達目標(ねらい) 本演習は4年次に提出する卒業論文を、2年間かけて作成することを希望する、3年次の学生を対象としてもうけられた演習であると位置づけています。従って、各受講者が卒業論文の主題を明確にするとともに、その基礎的技法や方法を獲得することが本演習の目的となります。

講義の内容／授業スケジュール 前期は、卒業論文に必須となる心理統計およびSPSSによるデータ解析の実質的指導を行います。後期は、受講者各自の論文テーマを明確にするために、受講者の興味のある文献検討を行います。受講者は各自のテーマについて個別に指導をうけると同時に、演習時にその研究経過を発表し、他の受講者からの意見・討論などを通じて、4年次の卒業論文に備えます。

履修上の留意点 各受講者の卒業論文の研究に基づく面接を随時行います。

成績評価の方法 課題の取り組み方や授業への姿勢などから総合的に評価します。

参考書 必要な参考図書および文献を演習時に随時提示します。

履修コード	075701
科目名	心理学特殊演習
担当者名	間島 英俊

講義の到達目標(ねらい)	本演習は、4年次の卒業論文作成を2年間かけてじっくり構想を練り、より質的に高い研究を目指す演習ゼミです。そのために、4年次の演習の「講義のねらい」に準拠します。
講義の内容／ 授業スケジュール	4年次の「演習」の講義のねらい、講義内容・授業スケジュールをそのまま当てはめることができます。ただし、時間的には余裕がありますので、この演習では、研究テーマの設定、研究計画および実施まで辿り着きたいと思います。
履修上の留意点	基本的には上述のように4年次の演習に結びつくことがねらいですが、ゼミ選考届けの前に、一応どんなことに興味をもって卒論として取りくみたいかを話し合いたいと思います。その上で、本演習を希望するのであれば履修していただきたいと思います。
成績評価の方法	出席、レポート、発表、討論等演習における真摯な研究態度に対して評価がなされます。
教科書／テキスト	特に指定はしません。
参考書	参考書、文献等については随時紹介します。

履修コード	075831
科目名	心理学特殊演習
担当者名	八巻 秀

講義の到達目標(ねらい)	本演習は、卒論作成の2年間のコースを希望する学生のための3年次の演習(ゼミ)です。この演習において、前半は各自が興味のあるテーマについて報告・討議しながら、卒論テーマの方向性を決定します。後半は、そのテーマについて文献研究ならびに学習を行います。さらに可能であれば、具体的なデータ収集(予備実験や予備調査)を行っていくことも目標とします。 授業形態としては、基本的にメンバー全員参加による討議形式やグループでの作業で行っていきま。必要に応じて、個別の直接的な研究指導も行っています。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1)オリエンテーション、(2~6)ゼミの基本方針・計画の決定、(7~15)興味あるテーマについての発表・討論、(16~17)個別研究指導、(18~27)卒論テーマに関する文献研究発表、(28~30)中間報告会
成績評価の方法	出席・課題への取り組みなどにより総合的に評価します。
教科書／テキスト	必要に応じて授業中に紹介します。
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。

履修コード	074201
科目名	心理学特講I
担当者名	永房 典之

講義の到達目標(ねらい)	「犯罪心理学」を学ぶ。 この授業では、犯罪と非行に関わる心理学的知見について学びます。犯罪について体系的に学ぶには、国際的には「犯罪学」としての枠組みを知る必要があるのですが、わが国では、法学・医学・社会学・心理学といった各分野での多様な研究アプローチがみられます。 本講義では、総論として主要な犯罪や非行理論を学び、各論として罪種別の各種犯罪について学びます。そのほか、犯罪捜査、防犯心理、犯罪とメディア、少年非行と発達、犯罪と性格など犯罪に関わるさまざまな「心理学的研究」について紹介します。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期(1-15)では、犯罪における心理学的研究アプローチ、犯罪理論(個体要因、社会・文化的要因など)、犯罪者の分類(財産犯、粗暴犯、性犯、凶悪犯など)、犯罪・非行者に対する心理査定(アセスメント)について講義します。後期(16-30)は、犯罪捜査(犯罪者・地理的プロファイリング)、防犯心理(防犯活動や環境、テロ対策)、犯罪とメディア(犯罪被害への態度、犯罪不安、リスク認知)、少年非行と発達(遺伝・環境、児童虐待、発達障害)、犯罪と性格(パーソナリティの研究)など、犯罪に関わる心理学的研究について幅広く取り上げます。
履修上の留意点	授業にて指示します。
成績評価の方法	筆記試験、課題提出を総合して成績評価をします。
教科書／テキスト	特にありません。参考書は適時紹介します。
参考書	小侯謙二・島田貴仁編著『犯罪と市民の心理』(北大路書房) 大淵憲一著『犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるのか』(培風館) 藤岡淳子著『犯罪・非行の心理学』(有斐閣ブックス) 水田恵三編著『犯罪・非行の社会心理学』(ブレーン出版) 安香宏・麦島文夫著『犯罪心理学—犯罪行動の現代的理解』(有斐閣) 各種統計資料 「犯罪白書」、「警察白書」、「子ども白書」
その他	授業の方法は講義とします。できるだけ犯罪に関わるさまざまな心理学的知見を紹介したいと思っています。メディアで大きく取り上げられる凶悪犯罪ばかりでなく、私たちの生活で身近な犯罪(窃盗など)、犯罪する心理だけでなく犯罪しない心理(犯罪抑制や防犯心理)についても興味・関心をもって授業に取り組んでください。

履修コード	074301
科目名	心理学特講II
担当者名	坂入 洋右 中塚 健太郎 谷木 龍男

講義の到達目標(ねらい) 心身の相互作用のメカニズムを基礎として、スポーツや身体活動を通して自己の心身の状態を良好に調節する「心身のセルフコントロール」の理論と実際を理解し、心身の不調の回復およびストレスマネジメント、そして健康増進、さらにはスポーツや仕事におけるパフォーマンスの向上に役立つ理論と方法の基礎を身につける。

講義の内容／授業スケジュール スポーツや身体活動と心の健康の関係性を基礎として、身体活動を活用して自己の心身の状態を良好に調整する心身のセルフコントロールと、スポーツや仕事や試験などでミスを防ぎ実力発揮するための心理的スキルトレーニングに関する理論と方法を実践的に解説する。
 1～5回：スポーツ健康心理学の概説
 6～10回：心身のセルフコントロールの理論と実際
 11～15回：スポーツとポジティブな体験、フロー・ゾーン・至高体験
 16～20回：心理的スキルトレーニングの理論と技法
 21～25回：スポーツにおける身体的ケア、ライフセービング・救急法
 26～30回：スポーツにおける心理的ケア、カウンセリング・コーチング

成績評価の方法 授業における提出課題の評価と出席状況を総合的に評価する。

教科書／テキスト 指定教科書はありません。

参考書 春木豊(編)「身体心理学」川島書店
 日本スポーツ心理学会(編)「スポーツメンタルトレーニング教本」大修館書店
 日本ライフセービング協会(編)「サーフライフセービング教本」大修館書店

その他 授業日程：8月1日(月)～8月5日(金)・8月8日(月)
 (土・日曜日除く)の1～5時限。

履修コード	074401
科目名	心理学特講III
担当者名	萩原 滋

講義の到達目標(ねらい) 今年度は、心理学関係の英語の文献の読解力を高めるために英文のテキストや論文の購読を行う。

講義の内容／授業スケジュール 購読する文献は、履修者の興味や関心に合わせて選択する予定だが、最初は基礎的なテキストを使用し、その後は研究論文の購読を行う予定。基本的には、演習形式の授業となるが、必要に応じて、文献の内容に関連する解説を行うつもりである。

準備学習 各自、事前に指定された文献を読んだうえで授業に出席すること。

履修上の留意点 基本的に演習形式の授業になるので、無断欠席をしないこと。

成績評価の方法 平常点での採点を基本とする予定。

教科書／テキスト 開講時に履修者と相談のうえで決定する。

その他 履修者数に応じて授業の進め方を調整する。

履修コード	070951
科目名	心理学入門
担当者名	永田 陽子 小野 浩一 谷口 泰富 茅原 正 間島 英俊 有光 興記 鈴木 常元 八巻 秀 茨木 博子

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、心理学科の専任教員がリレー方式で、それぞれの専門的立場から「心理学を学ぶことの意味」や「心理学の魅力」について講義します。また、社会で活躍している心理学科卒業生を招き、心理学と職業の関わりについて話してもらいます。さらに、公開講座に出席することにより、心理学界における心理学を体得します。この講義の目標は次の3点です。まず、新入生に、高校までの「受動的勉強」から「自主的、自発的、積極的な学び」によって心理学という学問に取り組んでもらうこと、キャリア意識を持って心理学を4年間学習してもらうこと、より広い視野で心理学を学ぶ姿勢を培ってもらうことです。

講義の内容／授業スケジュール

第1回	間島英俊	専任教員	「心理学はヒトの心のメカニズムを長い間解明してきました。本講を始めるにあたり、その歴史を旅します」
第2回	有光興記	専任教員	「社会心理学入門 社会心理学の基本的な考え方を、コミュニケーションの取り方のワークから学ぶ」
第3回	永田陽子	専任教員	「錯覚から上下・左右逆転の世界へ。正直で知的だけどおちょこちよいいな私達の脳の話」
第4回	茨木博子	専任教員	「人間関係を考える—自己理解、他者理解のための触れ合いコミュニケーション」
第5回	鈴木常元	専任教員	「心理療法とは？言語・思想・文化から考える」
第6回	八巻 秀	専任教員	「いろいろな心理学がある中で「臨床心理学」はどんな位置にあるのか？その地図のようなものを解説します」
第7回	茅原 正	専任教員	「『色即是空』の心理学についてお話しします」
第8回	谷口泰富	専任教員	「『いいえ、違います。ウソではありません！』嘘の科学的検出についてお話しします」
第9回	小野浩一	専任教員	「実験は冒険・探検。いざやってみたら大失敗だった実験の話」
第10回	田頭千鶴	スクールカウンセラー	「スクールカウンセリングについて」
第11回	石丸 剛	会社員	「就職活動—企業が求めるもの—」
第12回	公開講座		「こころの病とその予防—禅と森田療法に学ぶ—」への出席
第13回	福島圭子	公務員	「少年非行について」
第14回	堀越陽子	児童心理司	「児童相談所について」

準備学習 特にありません。

履修上の留意点 この科目は1年次のみ履修可能であり、1年次全員履修科目となります。

成績評価の方法 出席状況および受講シートの提出により総合的に評価いたします。

教科書／テキスト 特にありません。

参考書 講義担当者によって、授業中に資料の配布および参考書の紹介があります。

履修コード	074501
科目名	心理検査法I
担当者名	丸茂 ひろみ 佐藤 尚代

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、心理検査法のうち、前期には〈投影法心理検査〉を、後期には〈知能検査とその関連領域〉を学ぶ。
 前期は〈投影法心理検査〉の基本的な心構えと基礎知識を身につけることが第1の目標である。投影法検査につきものの複雑な施行手続きや、難解ともいわれる解釈プロセスには、それぞれに意味がある。それらの基礎を身につけながら、被検者に利益をもたらす検査施行の心構えを学ぶ。
 後期は、〈知能検査とその関連領域〉では、これらの検査を理解するために検査の基礎となる知能や発達観について理解を深め、検査の基礎的な流れに触れることを目的とする。その上で、検査の有用性と限界、利用の注意点など各検査の特徴と共に被検査者の立場についても学ぶ機会とする。
 前後期共に、授業は、講師による講義に加えて、体験学習（施行実習）やグループ討論・与えられた課題に自分なりのコメントをまとめる、などの形式で進むので主体的な参画が求められる。

講義の内容／授業スケジュール (前期)
 1. 心理アセスメントとは（投影法の位置付け）
 2. 各種投影法心理検査の実際（成り立ち、背景理論、適用、施行実習）
 3. 心理アセスメントにおいて大切なこと
 (後期)
 1. 心理アセスメントについて、発達・知能検査の概要
 2. 発達・知能検査の自己学習（グループ討議と発表）
 3. 知能検査の施行について ～ 施行に際しての注意事項や手続きの実際、演習
 4. 発達・知能検査の実際 ～ 検査の目的と検査バッテリー、検査の見方・まとめ方

履修上の留意点 履修希望者は各期の初日に必ず出席のこと。用具の準備は勿論のこと、受講生同士が検査者＝被検査者の役割を交換して行う事も多く、時間を遵守し休まずに出席することを前提とする。やむなく欠席した場合は、教員に相談の上個人の責任において実習や提出物に関するフォローを各自が行うこと。また、検査法に対して幅広い基礎知識を身につけたい者は、「心理検査法II」の授業も併せて履修することが望ましい。（両講義を同時に履修しても可。異なる年度にどちらから履修しても可。）

成績評価の方法 出席を重視する。前期・後期とも、提出物（感想文、授業ノート、レポートなど）を課する。学年末に定期試験を行う。

教科書／テキスト 必要に応じて指示する。
参考書 必要に応じて指示する。

履修コード	074601
科目名	心理検査法II
担当者名	稲富 正治 中澤 世都子

講義の到達目標(ねらい) 臨床心理学の中で重要な位置を占める「心理検査」の対象は、人の性格、情緒性、精神発達状態、知能、人間関係、病理性など様々で、各々の検査の理論的背景や実施方法は異なる。
 本講義では、心理検査法のうち、前期には神経心理学的検査、作業検査、質問紙法検査の一部を、後期には、職業興味検査、質問紙法検査を体験し、各検査の理論的背景の理解と、実施、採点、解釈の仕方を学ぶ。
 また、臨床現場での心理検査実施上の心構え、心理検査とは何か、心理検査の妥当性、信頼性、標準化、実用性などについても可能な範囲で取り扱う。

講義の内容／授業スケジュール (前期) MMPI、STAI、NEO、VPI、内田クレペリン精神作業検査法、Y-G、
 (後期) TEG、CMI、GHQ、MAS、MPI、ベンダーゲシュタルトテスト、ペントン視知覚検査
 などを学ぶ。講師の都合により、検査の内容や時期は変更になる場合がありますのでご了承ください。

履修上の留意点 (学生が受講する前に踏まえておくべき点)
 前期、後期の授業初日に、授業の進め方や注意事項、成績評価についての説明を行う。履修希望者は各期の初日に必ず出席のこと。
 授業では、受講生同士が検査者、被検査者の役割を交換して行うので、休まずに出席することを前提とする。やむなく欠席した場合には、個人の責任において、実習や提出物に関するフォローを行うこと。
 また、本講義では、各領域にわたる心理検査全般を扱っていない。検査法に対して幅広い基礎知識を身につけたい者は、「心理検査法I」の授業も履修することが望ましい（両講義を同時に履修しても可。異なる年度にどちらから履修しても可）。

成績評価の方法 出席、授業態度、発表、定期試験により評価を行う。
教科書／テキスト 講義において指示する。
参考書 必要に応じて紹介する。
その他 (授業方法＝講義形式、ゼミ形式、プリント配布、レジュメ配布等)：心理検査の理論的背景、実施、採点、解釈を発表形式で学び、場合により、グループ討議を行う予定である。

履修コード	071001
科目名	心理統計学
担当者名	宇佐美 慧

講義の到達目標(ねらい) この講義の目的は、様々な学問分野において必要不可欠である統計学の中でも、特に心理学を含めた人文科学系のデータを扱う為の技術・理論である心理統計学の基礎を学ぶことである。

講義の内容／授業スケジュール 指定の教科書と講師の方から配布されるプリントを中心に、講義形式でその内容を解説しながら、心理統計学的概念の理解を、データの読み取りや簡単な計算演習を織り交ぜて進めていく。前期における講義は概ね以下の順序に基づいて進める。

- 第1回 心理学と統計学(ガイダンス)
- 第2-4回 1つの変数のデータの記述: 尺度水準と尺度変換・代表値・散布度
- 第5-7回 2つの変数のデータの記述: 共分散・相関係数・連関計数、および復習
- 第8回 中間試験(レポート)
- 第9回 標本と母集団の関係
- 第10-13回 正規分布と標準正規分布・標準誤差の解釈・推定と推定量
- 第14回 これまでの復習
- 第15回 期末試験

後期では前期と同様に教科書とプリントを用いながら、統計的仮説検定や、より実践的なデータ解析を行う予定である。

履修上の留意点 簡単な計算演習を幾らか行う都合で、電卓が必要になることがある為、各自用意しておく。

成績評価の方法 前期と後期それぞれ、中間試験と期末試験の結果(4:6)に基づいて成績評価を行う。中間試験はレポート形式で行う予定である。

教科書／テキスト 山田剛史・村井潤一郎 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房 2800円
4-623-03999-4

参考書 南風原朝和 心理統計学の基礎 有斐閣アルマ 2310円 978-4641121607

その他 なし

履修コード	074101
科目名	精神医学
担当者名	吉川 麻衣子

講義の到達目標(ねらい) 精神医学は医師だけに必要な知識ではありません。本講義では、将来、臨床心理・精神保健福祉・介護・社会福祉・作業療法などの分野に進む人にとって必要となる知識に重点を置き、精神医学を幅広く理解することを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 【前期】(1)イントロダクション・講義全体の概要(2)脳についての話(3-9)主に内因による精神障害(統合失調症・躁うつ病)についての話、及び神経伝達物質と薬物治療についての話、抑うつと自殺行動についての話(10-15)主に外因による精神障害(認知症、ヘルペス性脳炎後遺症等)についての話
【後期】(1)イントロダクション・講義全体の概要(2-6)主に心因による精神障害(不安と恐怖、いわゆる神経症、PTSD、不眠症等)についての話(7-9)児童・青年期精神医学(発達障害など)についての話(10)性格のかたより(人格障害など)についての話(11-15)薬物依存、アルコール依存、病院精神医療、司法精神医療などについての話

履修上の留意点 できるだけ出席し、ノートなどをとるよう心がけてください。

成績評価の方法 出席状況とレポートで評価します。

教科書／テキスト 特別指定しません。推薦書物は授業の中で紹介します。

履修コード	072301
科目名	生理心理学
担当者名	谷口 泰富

講義の到達目標(ねらい) 生理心理学は行動の心理的機能と生理的機能の対応関係を研究する科学である。本講は、統合的有機体としての人間の行動を解明するための生物学的基礎について学ぶことを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール (1)精神身体観とその歴史、(2)神経系の構造と機能、(3-5)中枢神経系と末梢神経系、(6-9)大脳皮質の構造と機能、(10-11)大脳辺縁系の機能、(12)下位脳幹の主たる機能(13-15)自律神経系と体性神経系、(16-18)感情・情動と生体反応、(19-30)生理心理学的測定(脳波、呼吸運動、心臓・血管運動、皮膚電気活動)とその心理学的活用(実習を含む)

履修上の留意点 (1)視聴覚教材を使用した授業や、実習形式の授業があるので、遅刻や欠席をしないでください。
(2)オリエンテーションは4月14日(木)のみとし、4月21日(木)より正規の講義を始めます。講義内容は連続しており、中途からの受講では理解が難しくなるので、履修する人は遅くとも4月21日(木)の2回目からは必ず出席してください。

成績評価の方法 出席、レポート及び定期試験により総合的に評価します。なお、レポート未提出の場合及び実習に出席していない場合は成績評価をしません。

教科書／テキスト 教科書は使用しませんが、参考資料(プリント)を配布します。

参考書 講義の内容に応じて随時参考書等を紹介いたします。

履修コード	071801
科目名	禅心理学
担当者名	茅原 正

講義の到達目標(ねらい) 複雑で、ストレスに満ちた現代、瞑想に関する科学的研究がさかんに行われ、身心に及ぼす良好なる効果が数多く発表されている。本学における「禅の心理学的研究」の成果は、国内のみならず国際的にも高く評価されている。心理学科の3年次必修専門科目としての「禅心理学」は、建学の精神を活かすものであり、禅の精神によって培われた、心豊かな「行学一如」の人材の育成を目指す、他大学には例をみない本学の特色である。
本講義では、坐禅を主とする禅の心理生理学的研究の歴史、および研究の成果について概観するとともに、実験的課題と展望、禅の心理論理、唯識の心理学などについても考察する。

講義の内容／授業スケジュール 本年度は、以下のようなテーマにそって、授業を進めるつもりである。

1. 東洋の心理学の特質
2. 禅と心理学
3. 東洋的行法の研究-日本・外国-
4. 禅瞑想の心理・生理学的研究
5. 調身・調息・調心
6. 「普勧坐禅儀」考
7. 禅とコトバ、心理論理
8. 「空」の立場
9. 「有時」-存在と時間-
10. 華嚴の世界観
11. 唯識の心理学

履修上の留意点 本講義は3年次の必修専門科目であるため、出席を重視する。

成績評価の方法 年度末の定期試験のほか、課題、講義への出席状況を考慮して、総合的に判定する。

教科書／テキスト 特に指定しない。

参考書 秋重義治『禅の心理学』（法政大学出版局）
春木・清水・水沼（監訳）『瞑想の心理学』（川島書店）
児玉和夫（監訳）『瞑想の生理学』（日経サイエンス社）
その他、参考文献、資料等については、講義の際、詳しく紹介する。

その他 授業は主として講義の形式で進めるが、OHP、プリント等により、理解しやすいように努めるつもりである。また、坐禅堂の使用が可能であれば、禅の精神を体得するという意味で、月に一度ぐらい坐禅の実習を行う予定である。

履修コード	072401
科目名	認知心理学
担当者名	永田 陽子

講義の到達目標(ねらい) 心理学においては心理学的事象をどのような立場で捉えるかという研究上の視点の問題がある。この立場にはいろいろあるが、本講義では、認知という側面に焦点をあてて考察しようとする立場をとる。認知とは生体の能動的な情報収集・処理の活動であり、このような観点から心理学的事象を捉えようとする心理学は認知心理学とよばれる。本講義では、基礎心理学において重要な視点のひとつである認知心理学に対する基本的知識を習得することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 本講義では、認知心理学の歴史を概観した上で、環境からの情報取得（感覚・知覚）と保持（記憶、知識の表象）について、これらの発達過程や障害についての認知科学の研究動向を解説するとともに、実験のデモンストラーションを紹介する。

1. 認知とは何か(第1回)
2. 認知心理学の歴史的背景(第2～3回)
3. 視覚システム(第4～7回)
4. パターン認知(第8～10回)
5. 物体認知(第11～13回)
6. 顔の認知(第14～15回)
7. 注意(第16～19回)
8. 意識(第20～22回)
9. 心的表象(第23～26回)
10. 記憶(第27～30回)

成績評価の方法 筆記試験、出席状況、実験参加状況などを考慮し、総合的に評価します。

参考書 特定の教科書を使用することはありませんが、適宜、必要な参考図書および文献を紹介します。

履修コード	072501
科目名	発達心理学
担当者名	間島 英俊

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、エリクソン、E.H.の発達理論を中心に展開する。エリクソンのアイデンティ理論は、諸君等の年齢が青年期後期に相当するこの時期に、自己確立を発達課題となす。彼は、人間の一生を誕生から死に至るまでのライフサイクル理論、ならびにそれに対応する心理・社会的危機論にて説明をしている。ライフサイクルを概観することにより、諸君は「自己」についての過去-現在-未来へのタイムトラベリングが可能になるのである。講義では、各ライフサイクル上にて起こるライフイベント、発達課題、ならびにトピックスを紹介しながら展開していく予定である。

講義の内容／授業スケジュール

1. 発達理論 (認知発達、社会的学習理論、精神分析理論、現象学派理論)
2. 胎児期
3. 乳児期 (信頼VS不信)
4. 歩行期 (自律VS恥・疑惑)
5. 学童前期 (積極性VS罪悪感)
6. 学童中期 (勤愼性VS劣等感)
7. 青年前期 (集団同一性VS疎外)
8. 青年後期 (個人的同一性VS役割拡散)
9. 成人前期 (親密性VS孤立)
10. 成人中期 (生殖性VS停滞)
11. 成人後期 (統合VS絶望)
12. エピローグ (今日的課題に対する発達心理学の応用として)

以上のスケジュールにそって1テーマ4時間位のペースにて講義を進めていきます。

成績評価の方法 3分の2以上の出席を必須とします。成績は最終講義にて行う授業時間内試験(定期試験と同価値)にて評価します。また、成績が合格点に達しない者には出席も補助的評価としてなされるが、合格を保証するものではない。

教科書／テキスト 教科書は指定しません。

参考書 参考書は資料としてプリントされたものの中で紹介します。なお配布されたプリントは後日再配布しませんので、休む場合は、友人に頼むなり各自でコピーなどして補うこと。

履修コード	058711
科目名	犯罪と逸脱の社会学A
担当者名	作田 誠一郎

講義の到達目標(ねらい) 現代社会における犯罪と逸脱に対する基本的な研究方法について概観します。その後、具体的な犯罪と非行に関する諸理論を中心に紹介し、現代社会における犯罪や非行を理解するための社会的なアプローチを身につけることが本講義のねらいです。

講義の内容／授業スケジュール

(1) 逸脱社会学とは何か (2~4) 逸脱現象の研究手法 (5~8) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅰ(社会解体論、アノミー論等) (9~11) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅱ(レイベリング理論、コントロール理論等) (12~14) 犯罪・非行の逸脱理論Ⅲ(抑止理論、割れ窓理論等) (15) まとめ

準備学習 今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍(ルポルタージュや犯罪史など)に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。

履修上の留意点 詳細は、初回の講義で説明します。

成績評価の方法 期末試験(5割)、講義内の課題提出・出席(5割)により評価します。詳細は初回の講義で説明します。

教科書／テキスト 適宜、授業中に資料を配布します。

参考書

下記のほか、講義の中で随時紹介します。

デュルケーム(宮島喬訳)『自殺論』(訳1985年刊、中央公論社、980円、ISBN:4122012562)

小林寿一編『少年非行の行動科学——学際的アプローチと実践への応用』(2008年刊、北大路書房、2625円、ISBN:9784762826047)

河合幹雄『日本の殺人』(2009年刊、筑摩書房、819円、ISBN:9784480064882)

湯浅誠『反貧困——「すべり台社会」からの脱出』(2008年刊、岩波書店、777円、ISBN:9784004311249)

阿部彩『子どもの貧困——日本の不公平を考える』(2008年刊、岩波書店、819円、ISBN:9784004311577)

その他 後期に開講される「犯罪と逸脱の社会学B」もあわせて履修することをおすすめします。

履修コード	058721
科目名	犯罪と逸脱の社会学B
担当者名	作田 誠一郎

講義の到達目標(ねらい) 逸脱に対する社会的アプローチから官庁統計やメディア報道について考えていきます。また、犯罪・非行に関わる法執行機関と刑事司法の動向について説明します。その後、日本の犯罪や非行の近代化について明治期以降の歴史的観点から概観します。

後半では、犯罪・非行を中心とした社会問題について後期近代の特徴を踏まえながら論点をとりあげて検討を加えていきます。講義を通じて社会的な視点から逸脱に対する考察力を身につけ、高めることを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール

(1) 逸脱に対する社会的アプローチ (2) 官庁統計を読む (3・4) 犯罪報道の特徴と読み解き方 (5・6) 法執行機関と刑事司法のプロセス (7~9) 少年非行史 (10~14) 今日の逸脱研究(精神医療化、高齢者犯罪、性的逸脱、ホワイトカラー犯罪、学校社会の逸脱等) (15) まとめ

準備学習 今日の犯罪や非行に対する理解と関心を高めるために日ごろから新聞等に目を配り、問題意識をもつように心がけてください。また犯罪や非行に関する書籍(ルポルタージュや犯罪史など)に目を通しておくことは本講義を受講するための事前学習として有益です。

履修上の留意点 詳細は、初回の講義で説明します。

成績評価の方法 期末試験(5割)、講義内の課題提出・出席(5割)により評価します。詳細は初回の講義で説明します。

教科書／テキスト 適宜、授業のなかで資料を配布します。

参考書

下記のほか、講義の中で随時紹介します。

河野義行ほか『報道は何を学んだのか——松本サリン事件以後のメディアと世論』(2004年刊、岩波書店、504円、ISBN:4000093363)

浜井浩一・芹沢一也『犯罪不安社会——誰もが「不審者」?』(2006年刊、光文社、777円、ISBN:4334033814)

鮎川潤『新版 少年非行の社会学』(2002年刊、世界思想社、1995円、ISBN:4790709442)

小林寿一編『少年非行の行動科学——学際的アプローチと実践への応用』(2008年刊、北大路書房、2625円、ISBN:9784762826047)

日本犯罪社会学会編『犯罪からの社会復帰とソーシャル・インクルージョン』(2009年刊、現代人文社、2415円、ISBN:9784877984045)

その他 前期に開講される「犯罪と逸脱の社会学A」もあわせて履修することをおすすめします。

履修コード	074001
科目名	比較行動学
担当者名	入江 尚子

講義の到達目標(ねらい) 進化生物学の基礎と、生物の行動理解に対する進化的なアプローチの有効性を理解する。微生物から昆虫、哺乳類といった多様な生物のありようを明らかにするのに共通に用いることができる理論体系であり、ヒトもその対象として例外ではないことを実例を通して学ぶ。さらに、最新の知見に基づきヒトの進化史を再構築し、ヒトを他の動物と異ならせているユニークな特徴とは何かについて検討する。

講義の内容／授業スケジュール

第1回 : 自然淘汰による進化という考え方の基礎
 第2回 : 群淘汰説に対する批判と包括適応度
 第3～5回 : 血縁淘汰により説明される協力と攻撃のパターン
 第6～7回 : 互恵的利他行動
 第8～9回 : 進化ゲーム理論
 第10～13回 : 囚人のジレンマと実際の動物の行動
 第14～15回 : コミュニケーション信号とだまし
 第16回 : 進化理論の社会に対する影響
 第17～19回 : 形質に影響をおよぼす適応以外の要因、エボデボ革命
 第20～22回 : 親と子の対立の理論
 第23～25回 : 親の投資理論と性淘汰
 第26～28回 : ヒトの進化
 第29～30回 : 社会学習と文化的継承の認知的基盤

準備学習 授業内で紹介した関連書籍を読むことをはじめ、生物の生態や進化、ヒトの行動の生物学的な基盤について情報を収集し、関心を養う。

成績評価の方法 前期：期末試験
 後期：レポート（授業内で紹介した関連書籍を読んだ感想文）

教科書／テキスト 内田亮子『人類はどのように進化したか—生物人類学の現在』勁草書房 シリーズ認知と文化、2,800円、978-4326199426

参考書 坂口菊恵『ナンバを科学する—ヒトのふたつの性戦略』東京書籍、1,785円、978-4487802739
 リチャード・ドーキンス『利己的な遺伝子:増補新版』紀伊國屋書店、2,940円、978-4314010030
 長谷川寿一・長谷川眞理子『進化と人間行動』東京大学出版会、2,625円、978-4130120326

履修コード	058411
科目名	マス・コミュニケーション論A
担当者名	深澤 弘樹

講義の到達目標(ねらい) 現代を生きる私たちにとって、世の中の出来事を知る手段としてマス・メディアはなくてはならない存在となっている。一方、インターネットの発達により、マス・メディアを媒介とするマス・コミュニケーション活動は日々、変化している。こうした点を踏まえ、本講義では、マス・コミュニケーションの基本的概念や活字メディアから電子メディアに至る変容過程を概観するとともに、その機能について理解することを目的とする。さらには、マス・メディアによる社会的現実の構築作用やジャーナリズムの役割についての理解を深め、洪水のような情報のなかから有益なものを見極める力を養う。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ガイダンス、第2～3回：マス・コミュニケーションの基礎概念、第4～6回：マス・コミュニケーション発達史、第7～9回：マス・コミュニケーションの理論、第10回：受け手の能動性、第11～12回：メディアによる社会的現実の構築、第13～14回：ジャーナリズムとは何か、第15回：まとめ

準備学習 日頃から新聞、テレビなどから発せられる情報を漠然と受け入れるのではなく、批判精神、問題意識を持って接した上で授業に臨んでほしい。

成績評価の方法 学期末試験（7割）に出席状況や小テストなどの平常点（3割）を加味して総合的に評価する。

教科書／テキスト 特に使用しない。毎回レジュメを配布して授業を進める。

参考書 早川善治郎編著『新版 概説マス・コミュニケーション』学文社、3300円、ISBN978-4-7620-2055-1
 上記以外の文献については、授業中に随時提示する。

履修コード	058421
科目名	マス・コミュニケーション論B
担当者名	深澤 弘樹

講義の到達目標(ねらい) 多メディア化によってマス・コミュニケーション活動が日々、変化するなか、既存のマス・メディアの現状と今後を展望するのが本講義である。マス・コミュニケーション論Aでは、マス・コミュニケーション活動の定義や歴史、人々への影響といった理論的な解説を中心としたが、本講義では、それを受けて、実際のメディア組織の成り立ちや日々の情報発信活動がいかなるものであるのかをより詳細に見ていく。産業、組織、制度としてのメディアの「今」を考えながら、インターネット社会における旧来のメディアのあり方や今後のコミュニケーション活動の未来を展望してみたい。また、メディアから発せられる情報を読み解くためのメディアリテラシーを身につけることも本講義の目的である。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ガイダンス、第2～3回：新聞の現状、第4～6回：放送の現状、第7回：出版の現状、第8回：広告の現状、第9～11回：インターネット時代のマス・メディア、第12回：コミュニケーション・メディアの発達、第13～14回：メディア・リテラシーを身につける、第15回：まとめ

準備学習 日頃から新聞、テレビなどから発せられる情報を漠然と受け入れるのではなく、批判精神、問題意識を持って接した上で授業に臨んでほしい。

履修上の留意点 マス・コミュニケーション論Aを履修していることが望ましい。

成績評価の方法 学期末試験（7割）に出席状況や小テストなどの平常点（3割）を加味して総合的に評価する。

教科書／テキスト 特に使用しない。

参考書 早川善治郎編著『新版 概説マス・コミュニケーション』学文社、3300円、ISBN978-4-7620-2055-1
 藤竹暁編著『図説 日本のマスメディア[第二版]』日本放送出版協会、1120円、ISBN4-14-091039-9
 上記以外の文献については、授業中にその都度提示する。

履修コード	058551
科目名	民法
担当者名	大宮 隆

講義の到達目標(ねらい) 民法は、我々の日常生活の基本法として、財産と家族に関する事項を規律する法律である。本講義は編別でいうと親族、相続が対象である。出生、婚姻、離婚、扶養、相続という家庭生活の中で人の一生に生起するほとんどの事柄に係わる身近な法律である。家庭裁判所調査官補試験などをを目指す人に受講を勧めます。

講義の内容／授業スケジュール 親族—①婚姻、離婚
②親子
③親権、後見補佐補助
④扶養
相続—①遺言
②法定相続
③遺留分

準備学習 予習が必要である。

履修上の留意点 教科書、条文を読むこと。

成績評価の方法 出席状況と試験の成績を総合に評価を行う。

教科書／テキスト 『新民法概説(3)親族・相続』(有斐閣)1,800円
ISBN4-641-11265-7

参考書 適宜紹介する。

履修コード	072201
科目名	臨床心理学
担当者名	八巻 秀

講義の到達目標(ねらい) 臨床心理学は、様々な臨床現場における心理臨床・心理援助活動を通して生まれてきた学問であり、現在も発展し続けています。つまり「心理臨床の実践による実践のための学問」と言っても過言ではないでしょう。本講義では、このような臨床心理学とは、どのようなものなのか、どのようにして誕生し、どのように発展してきたのか、現在どのような現場で実際に活かされているのか、などという点について概観していきます。

講義の内容／授業スケジュール (1)オリエンテーション、(2～5)臨床心理学の全体像：臨床心理学とは何か・臨床心理士について、(6～8)臨床心理学の学問的背景：臨床心理学の誕生と発展・心理臨床学と臨床心理学・日本の臨床心理学の現状、(9～16)臨床心理学の様々な理論：精神分析学・分析心理学・個人心理学・家族療法・ブリーフセラピーなど、(17～27)心理臨床活動の実際：学校における心理臨床・医療における心理臨床・福祉領域における心理臨床・司法領域における心理臨床、(28～30)臨床心理学の展開：心のケア活動・社会における心理臨床・これからの心理臨床

準備学習 特に必要はありません

履修上の留意点 本来、授業とは、教員から学生への一方的通行では、成立しえないもので、学生と教員との相互作用・やりとりが起こることが大切です。そのためにも、ぜひ、積極的・主体的に授業に参加しようとするだけでなく、教員と一緒に授業を作っていく心構えを持って臨んでください。

成績評価の方法 授業中にほぼ毎回実施するミニレポートと定期試験により、総合的に評価します。

教科書／テキスト 必要に応じて授業中に紹介していきます。

参考書 下山晴彦 編『よくわかる臨床心理学(改訂新版)』2009年刊(ミネルヴァ書房)3,150円、ISBN: 9784623054350 NDC分類:

履修コード	065521 065522
科目名	老人福祉論
担当者名	東條 光雅

講義の到達目標(ねらい) 少子高齢化社会の進展に伴い後期老年期人口が増加し、要介護高齢者の急増、家族介護の深刻化、高齢者虐待の多発など、高齢者やその家族に関わる様々な社会的問題が発生し、医療・年金・介護などの社会保険制度のあり方が大きな政治課題となっている。本講義では、わが国における高齢化の現状と動向、高齢者や家族を取り巻く状況、これまでの高齢者対策や高齢者福祉制度の変遷、現行の高齢者保健福祉制度等について理解を深めてもらうとともに、今後の高齢者支援のあり方について論じてゆく。

講義の内容／授業スケジュール 第1回 高齢者の心理・精神的理解
第2回 高齢者の身体的理解
第3回 高齢者の社会的理解
第4回 高齢化・高齢社会の定義とわが国における高齢化の現状
第5回 諸外国における高齢化の状況と少子高齢化の要因
第6回 高齢者を取り巻く諸問題
第7回 高齢者保健福祉の発展過程
第8回 高齢者保健福祉の現行法体系
第9回 老人福祉法
第10回 高齢者医療確保法
第11回 高齢者虐待防止法
第12回 高齢者を支援する組織と役割(1)
第13回 高齢者を支援する組織と役割(2)
第14回 高齢者を支援する組織と役割(3)
第15回 これからの高齢者支援

履修上の留意点 この授業は講義形式で進めてゆくが、適宜受講生に対して講義内容に関する質問をしたり、意見発表をしてもらう。近年、受講生の私語や居眠りが目立つので、授業態度に問題がある場合には退室してもらう。履修学生は、気を引き締めて授業に臨んでほしい。

成績評価の方法 原則的には、3分の2以上の出席があれば定期試験を受けることができ、定期試験の成績によって評価する。

教科書／テキスト 『高齢者に対する支援と介護保険制度』、新社会福祉士養成講座第13巻、中央法規出版、2009年3月出版予定

参考書 『社会福祉小六法』、『厚生労働白書』、『国民の福祉の動向』など

その他 講義はパワーポイントを使って行う

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

講義の到達目標(ねらい) 今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではられません。労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正(近くでは労働時間や年次有給休暇など)、男女雇用平等、労働契約法などです。本講義では雇用関係法領域を中心に、基礎的知識を身につけることを到達目標にしています。

講義の内容／授業スケジュール 下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。
 1 回目の授業のときにプリントを配布してガイダンスをします。
 以下に、年間スケジュールを掲げます。ただし、重要な裁判などホット・イシューが出されればそれを中心にしたテーマに急きょ変更することもあります。また、授業中の理解の様子から変わることもあります。また、調整の回も設けました。したがって、以下のスケジュールは目安です。

第1回 ガイダンスー労働法分野と授業で扱う分野
 第2回 労働法の基礎的考え方
 第3回 日本型雇用システムの変化と労働法
 第4回 労働関係の主人公ー労働者、使用者、労働組合
 第5回 労働契約と労働契約法
 第6回 労働条件の最低基準の法定① 労働の自主性の確保
 第7回 労働条件の最低基準の法定② 最低基準の定立の意味
 第8回 調整
 第9回 雇用における平等① 労基法3条
 第10回 雇用における平等② 男女賃金差別の禁止
 第11回 雇用における平等③ 男女雇用機会均等法
 第12回 労働条件の集团的決定① 労働契約と就業規則
 第13回 労働条件の集团的決定② 就業規則の法的性質
 第14回 労働条件の集团的決定③ 就業規則による労働条件変更
 第15回 調整
 第16回 雇用の入口① 採用
 第17回 雇用の入口② 内定制度・試用制度
 第18回 人事異動 配転
 第19回 雇用の終了① 個別労働関係の終了
 第20回 雇用の終了② 法による解雇規制
 第21回 雇用の終了③ 解雇権濫用
 第22回 調整
 第23回 賃金・賞与・退職金① 賃金支払いの原則など
 第24回 賃金・賞与・退職金② 賞与・退職金
 第25回 労働時間① 労働時間に対する規制
 第26回 労働時間② 変形制度など
 第27回 労働時間③ 労働時間の例外
 第28回 年次有給休暇① 年休権の法的性質
 第29回 年次有給休暇② 時季指定・時季変更、計画年休
 第30回 調整

準備学習 テキストを読むこと(少なくとも該当単元のところは読んで授業に臨んでください)。新聞を読むことなどで。現代雇用問題に関する新書なども読んでください。

履修上の留意点 出席は義務。欠席はマイナス。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジюмеや資料です。教科書は予習や復習をする上で欠かせないアイテムでしょう。憲法、民法、社会保障法、社会政策は履修してほしい科目です。

成績評価の方法 成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価が付きません。レポートや中間試験そして出欠も考慮して評価します。追試験は実施します。

教科書／テキスト 教科書は、学修する上での必要アイテムです。学修に臨む自己の熟意によって各自で決めてください。よくわからないという方には、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法 I [第2版]』(エイデル研究所 2010)を掲げます。もとより、これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参考書 概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。六法は最新のもの(法律改正や制定があるので特に注意)。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。

その他 各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。

履修コード	073701
科目名	老年心理学
担当者名	植田 恵

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、生涯発達という観点を軸に、前半では、心身の加齢変化の特徴について学び、後半では、高齢者が直面する問題とそれに対する心理的援助・対応について学ぶ。特に、心理臨床の応用場面として、認知症や脳卒中の後遺症などによるコミュニケーション障害のある高齢者について、具体例を紹介しながら進める。

講義の内容／授業スケジュール

前期
 第1回-2回：少子高齢社会の到来と高齢者の現状
 第3回-4回：加齢と生涯発達
 第5回-6回：身体に加齢変化
 第7回-9回：感覚・知覚・認知機能の加齢変化
 第10回-11回：高齢者のアセスメント技法
 第12回-14回：パーソナリティと適応
 第15回：まとめ

後期
 第16回-17回：高齢者の暮らしと人間関係
 第18回-19回：老年期の精神病理（1）喪失体験、孤独、死
 第20回-21回：老年期の精神病理（2）自殺、うつ
 第22回-25回：老年期の精神病理（3）認知症
 第26回-27回：高齢者とのコミュニケーション
 第28回-29回：障害をもつ高齢者に対する心理的援助と対応
 第30回：まとめ

成績評価の方法 期末試験（後期末）および小レポート（2回）。成績の配分は、試験8：小レポート2とする。

教科書／テキスト 指定しない

参考書 講義の中で随時紹介する。